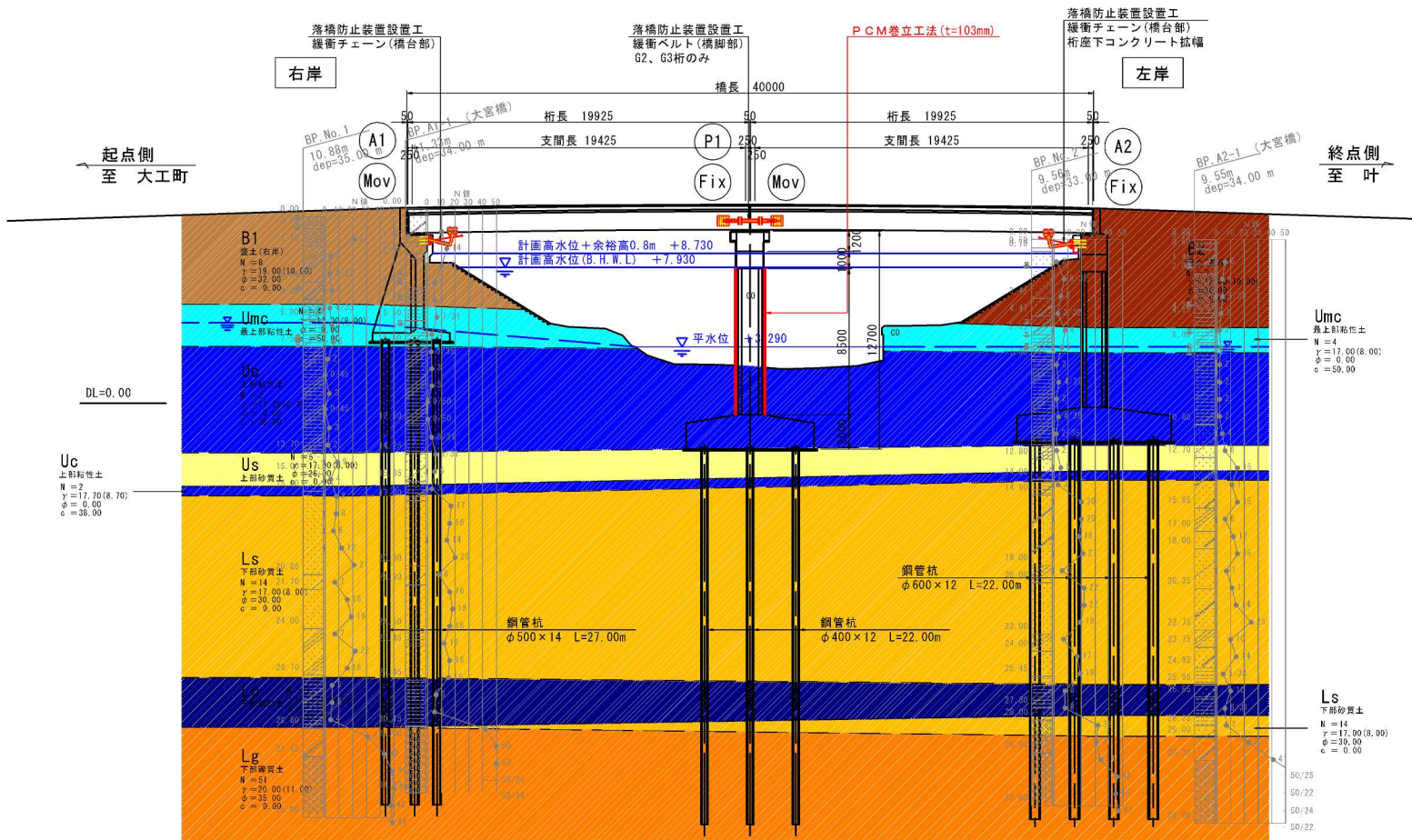
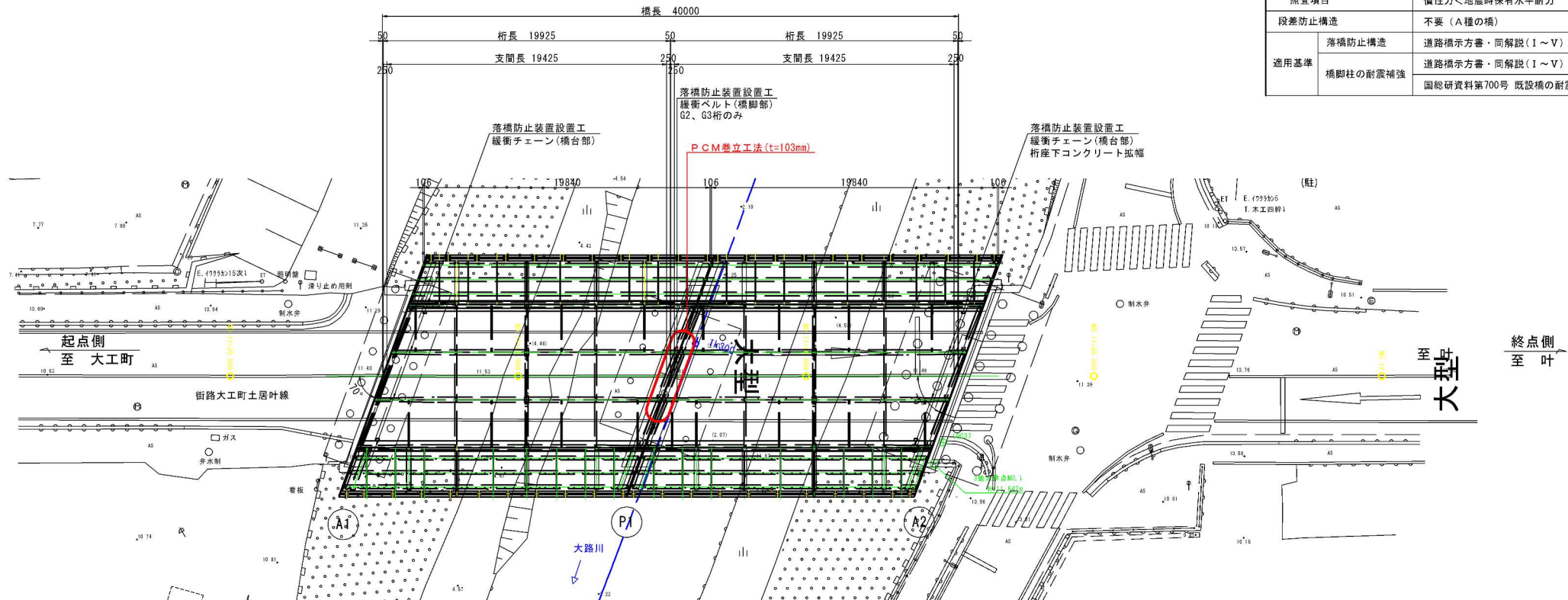


大宮橋 補強一般図

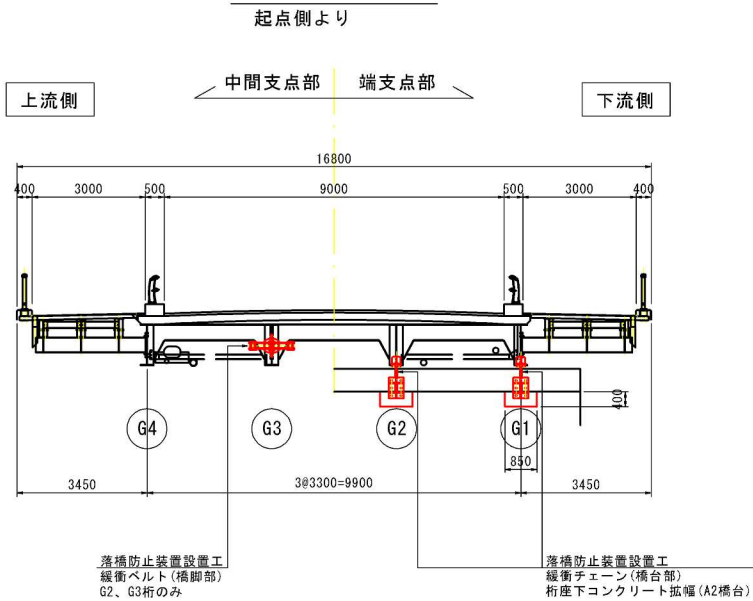
側面図 S=1:200



平面図 S=1:200



断面図 S=1:100



耐震補強設計条件

橋の重要度の区分	A種の橋
地盤種別	II種地盤(A1橋台はIII種地盤)
地域区分	A2地域 (C=1.0, C ₁ =1.0, C ₂ =1.0)
設計地震動	レベル2地震動(H24追示)
塑性化を考慮する部材	橋脚柱下端
水平力分担構造	不要(既設支承をそのまま使用)
落橋防止構造	
形式	桁かかり長 Se : 既設橋座幅で確保 落橋防止構造 : 緩衝チェーン(橋台部)、緩衝ベルト(橋脚部) 横変位拘束構造 : 不要(回転しない)
橋脚柱の耐震補強	
形式	P.C.M巻立法
耐力の算定	国総研資料第700号 既設橋の耐震補強に関する技術資料 平成24年11月
照査項目	慣性力・地震時保有水平耐力
段差防止構造	不要(A種の橋)
適用基準	落橋防止構造 道路橋示方書・同解説(I~V) 平成29年11月 橋脚柱の耐震補強 道路橋示方書・同解説(I~V) 平成24年3月 国総研資料第700号 既設橋の耐震補強に関する技術資料 平成24年11月

既設橋設計条件

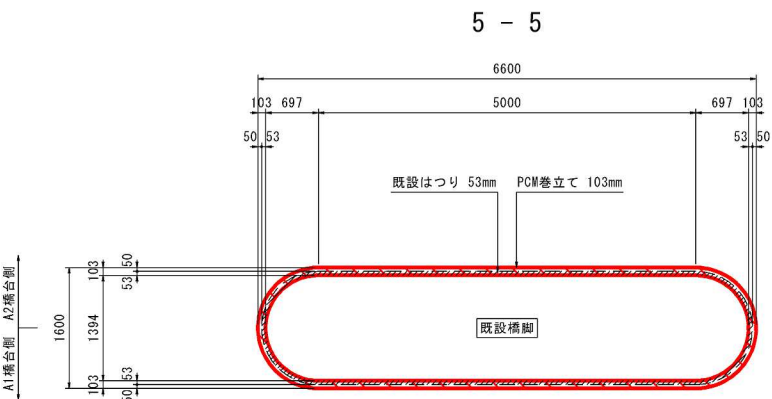
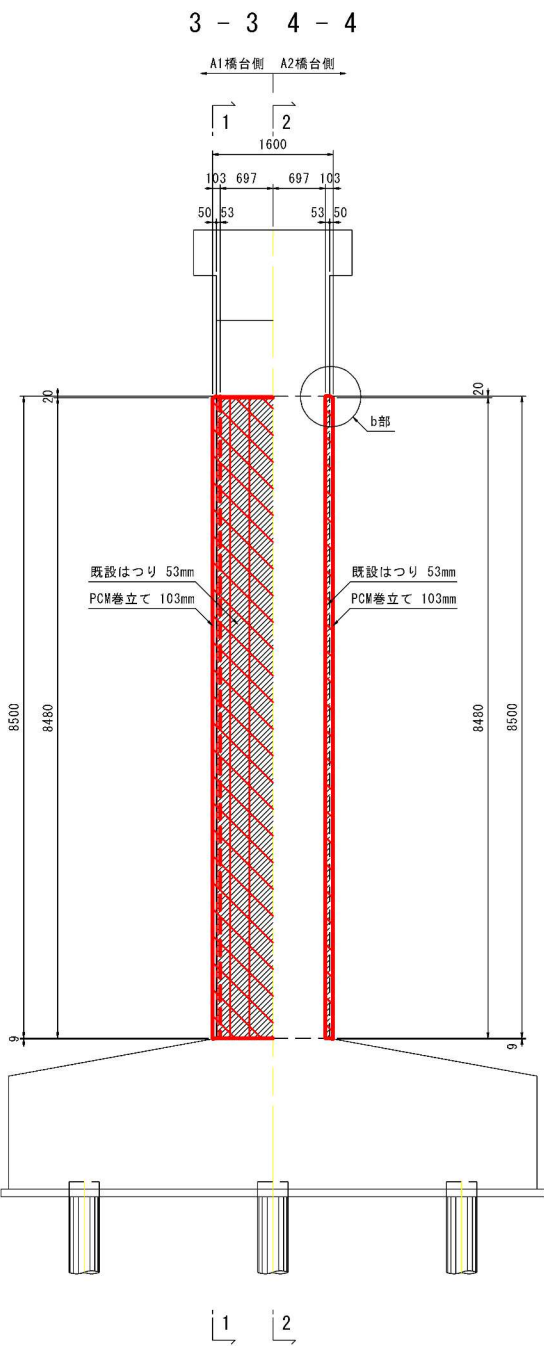
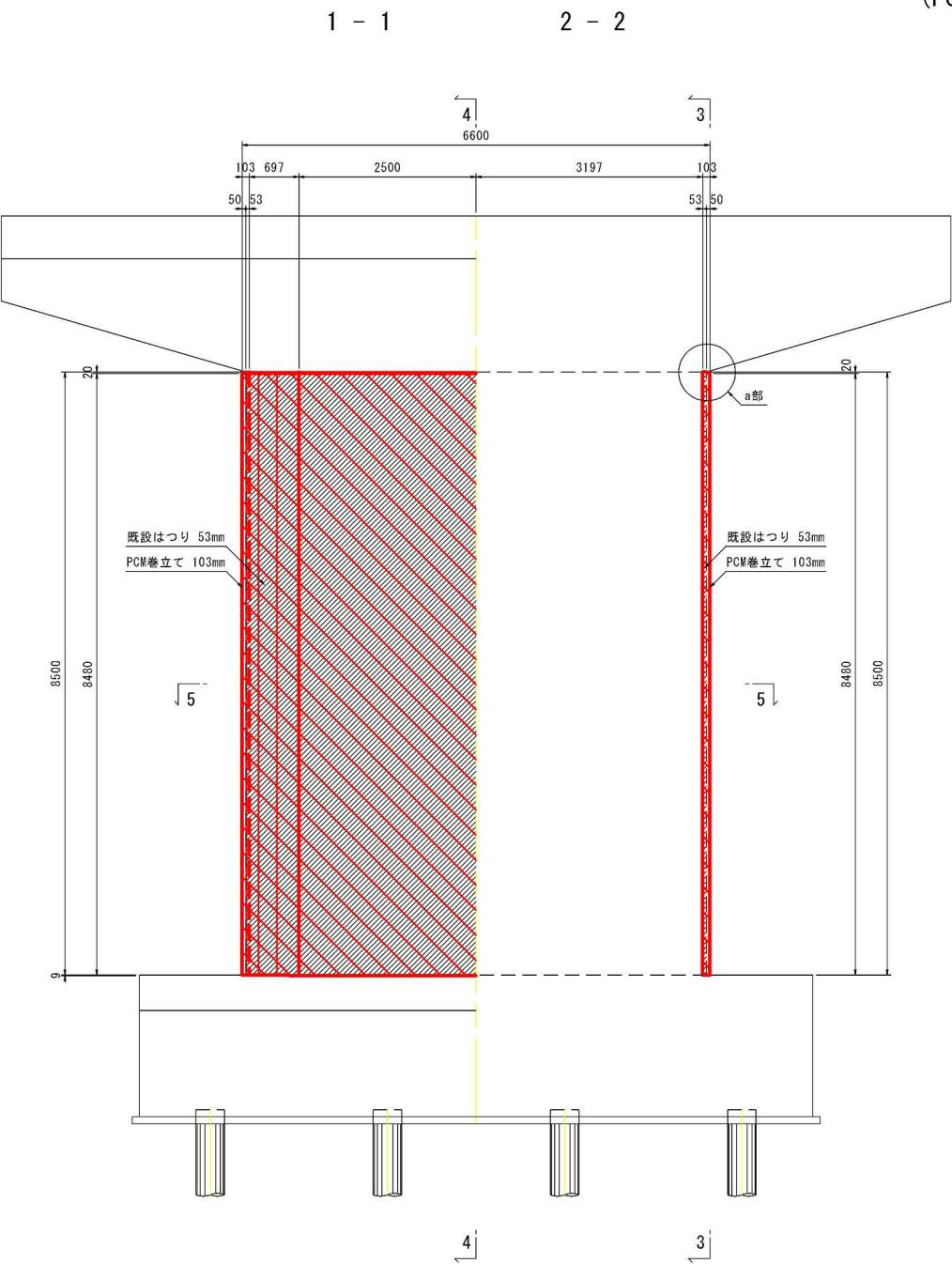
橋名	大宮橋
橋の等級	I等橋
路線名	街路大工町土井叶線
河川名	一級河川 千代川水系 大宮川
橋長	40.000 m
桁長	2x19.925 m
支間長	2x19.425 m
幅員	16.800 m
有効幅員	3.000m+9.000m+3.000m
斜角	左70°
活荷重	TL-20 (I等橋)
上部工形式	2径間 鋼単純活荷重合成版桁橋+上路式鋼床版桁橋(アルミニウム合金構造)
下部工形式	
橋台	起点側 扶壁式橋台(既往図書より) 終点側 ビアパット(既往図書より)
橋脚	P1橋脚 張出式小判形鉄筋コンクリート橋脚(既往図書より)
橋台	起点側 杭基礎(鋼管杭φ500×14 L=27.000m)(復元設計より) 終点側 杭基礎(鋼管杭φ500×14 L=27.000m)(復元設計より)
橋脚	P1橋脚 杭基礎(鋼管杭φ600×12 L=22.000m)(復元設計より) P2橋脚 杭基礎(鋼管杭φ400×12 L=22.000m)(復元設計より)
設計震度	KH=0.15(復元設計より)
架設年月日	1971年3月(昭和46年3月)
経過年数	52年
適用基準	鋼道路橋設計示方書/鋼道路橋製作示方書 昭和39年6月 道路橋下部構造設計指針: 調査および設計一般篇 昭和41年1月 道路橋下部構造設計指針: くい基礎の設計篇 昭和43年3月

- 注記
1. 本図面は、現地計測及び既存資料を基に作成した図面である。
 2. 施工前には周辺住民に説明を行いご理解ご協力を得ること。
 3. 施工時は非出水期(10/21~6/9)を原則とし、河川の水位、天候に十分注意をすること。
 4. 補強工事に当たり、各工種とも現地詳細調査を実施し施工方法及び数量を確定すること。
 5. 補強工法及び補強範囲は、調査結果により決定しているが、施工時に再度寸法調査後、適する工法を選定し補強を行うこと。
 6. 架設橋は、P1橋脚施工時の支障となるため、上流側に50m程度移設すること。
 7. 資機材の左岸上流側の道路は周囲への影響、緊急車両が通行するルートのため、右岸上流側の堤防道路(河川管理道)を利用すること。
 8. 資機材の搬出入において、10tトラックが河川管理道を通行する際は、起点側へ退避するルートとすること。
- その際、歩車道境界ブロックの部分撤去を行うこと。

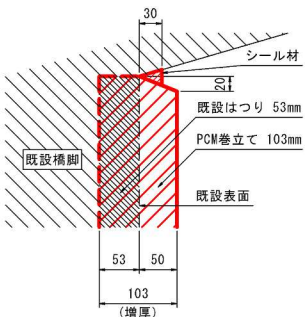
【R7-8債務】 起工

路線名	県道八坂鳥取停車場線
位置	県道八坂鳥取停車場線(大宮橋) 橋梁補修工事(補助橋補修)
図名	補強一般図
位置	鳥取市 大覚寺 ~ 的場
縮尺	図示単位 MM
図号	全 13 葉中の内 1
令和 7 年度施行	
鳥取県 鳥取県土整備事務所	

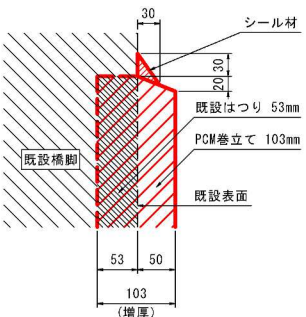
大宮橋 P1橋脚補強構造一般図 S=1:50
(PCM巻立工法)



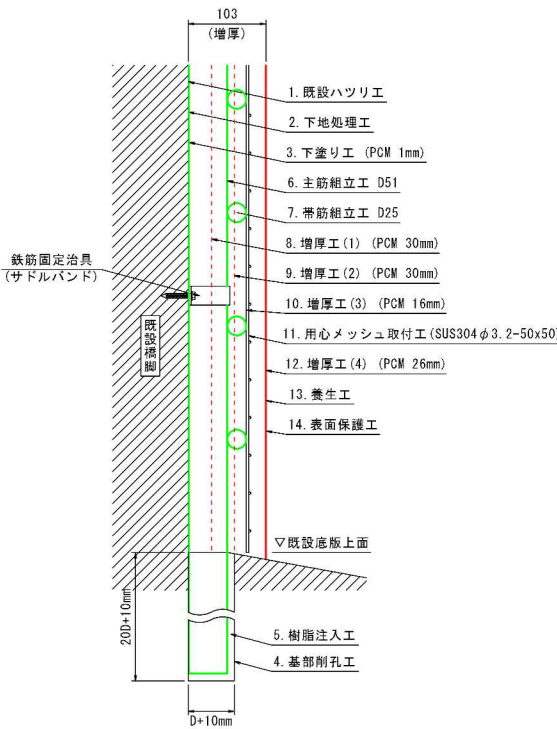
a部詳細図 S=1:5



b部詳細図 S=1:5



PCM増厚詳細図 S=1:5



施工手順

- 既設ハツリエ
- 下地処理工
- 下塗り工
- 基部削孔工
- 樹脂注入工
- 主筋組立工
- 帯筋組立工
- 増厚工 (1)
- 増厚工 (2)
- 増厚工 (3)
- 用心メッシュ取付工
- 増厚工 (4)
- 表面保護工

注記)
1. 既設下部工寸法は、既存図面を基に作成している。
2. 施工実施前に既設形状を再計測すること。
3. 足場架設は詳細調査を行い、製作・施工のこと。
4. 既設柱を53mmはつり、その後PCMを103mm巻立てること。
5. 補強部天端は排水勾配を設けること。
※準拠基準に関しては一般社団法人PCM工法協会
PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の
補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案)2021年8月を参照すること。

設計条件

名称	仕様
コンクリート 設計基準強度	30 N/mm ² (ポリマーセメントモルタル)
鉄筋種別	SD 345
最大鉄筋定尺長	12m

公 共 R7-8債務 起工

路線名	県道八坂鳥取停車場線
図 名	県道八坂鳥取停車場線 (大宮橋) 橋梁補修工事 (補助橋補修)
位 置	鳥取市 大覚寺 ～ 的場
縮 尺	図 示 単 位 MM
図 号	全 13 葉中の内 2
令和 7 年度施行	
鳥取県 鳥取県土整備事務所	

大宮橋 P1橋脚補強配筋図(その1) S=1:50

(PCM巻立工法)

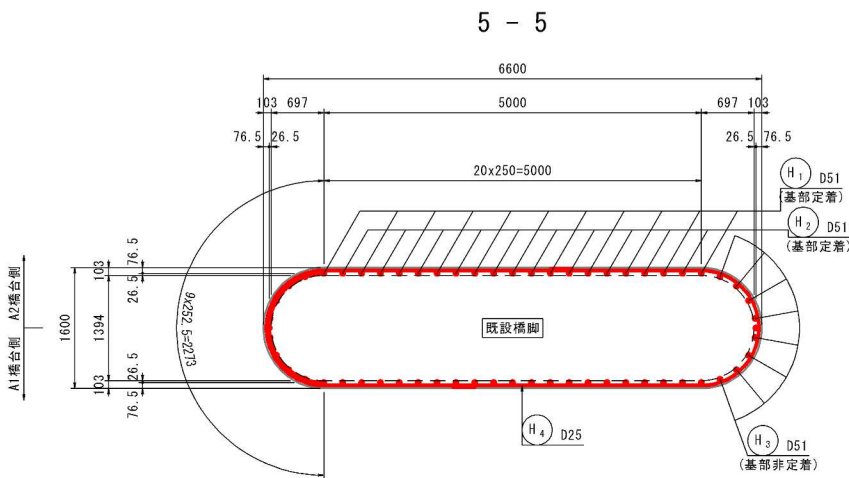
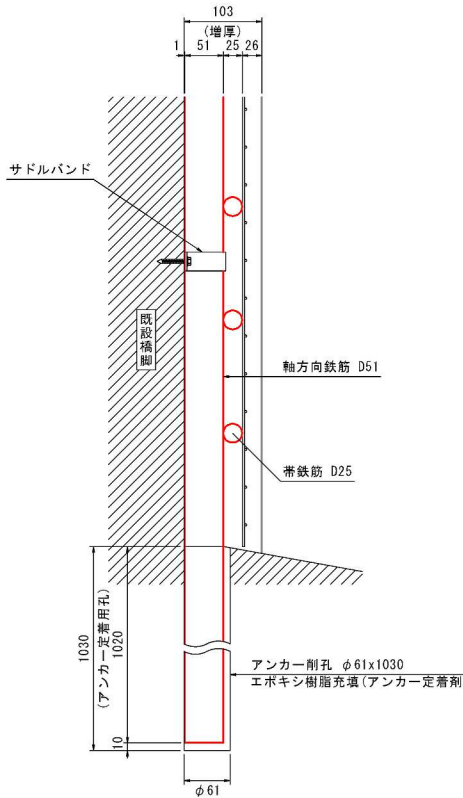
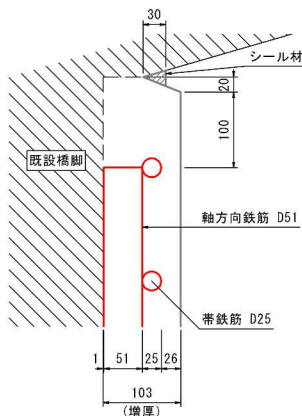
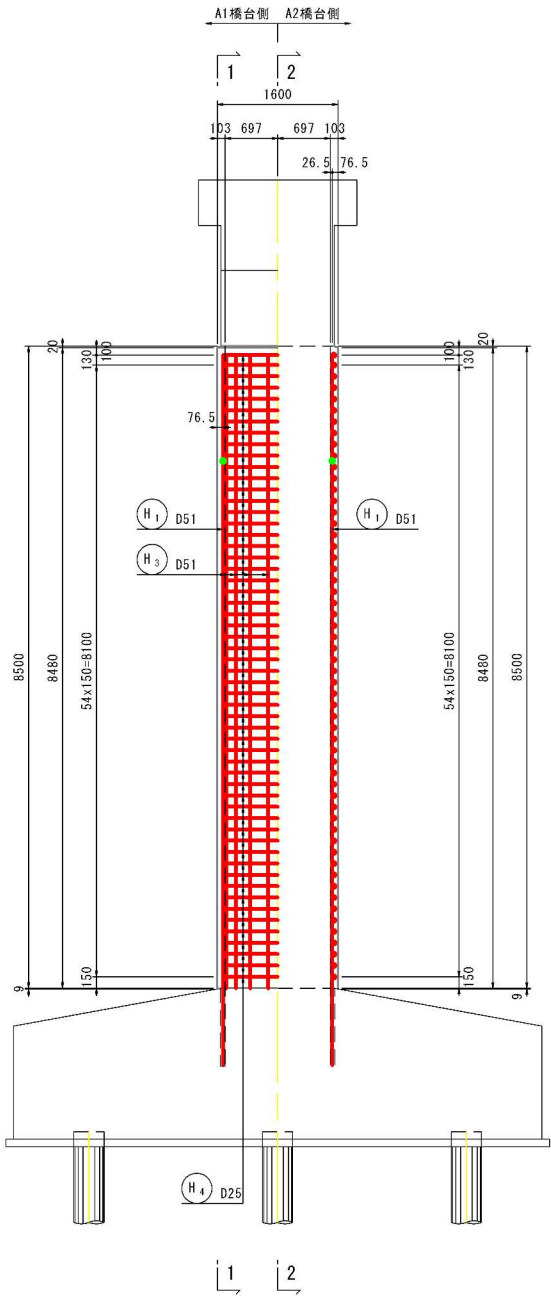
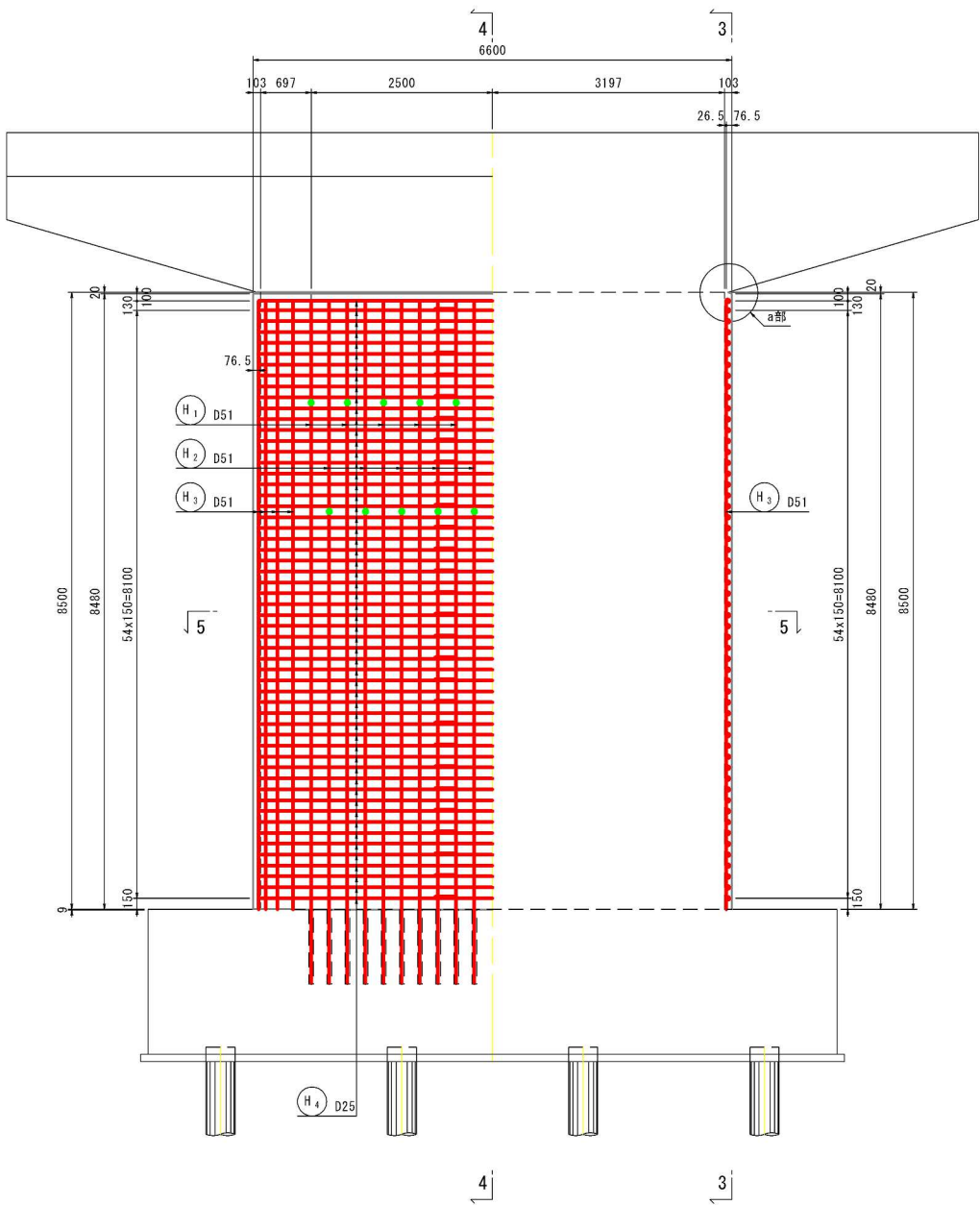
1 - 1

2 - 2

3 - 3 4 - 4

a部詳細図 S=1:5

アンカー定着鉄筋詳細図 S=1:5



設計条件

名称	仕様
コンクリート 設計基準強度	30 N/mm ² (ポリマーセメントモルタル)
鉄筋種別	SD 345
最大鉄筋定尺長	12m

- 注記)
1. 施工実施前に既設形状を再計測すること。
 2. 足場架設は詳細調査を行い、製作・施工のこと。
 3. 削孔する際は、既設鉄筋を切断しないよう鉄筋探索を行うこと。
 4. 補強部天端は排水勾配を設けること。
 5. 鉛直鉄筋の埋込み長は、鉄筋径の20倍とする。
 6. 鉛直鉄筋の削孔深さは、鉄筋径の20倍+10mmとする。
 7. 鉛直鉄筋の削孔径は、鉄筋径+10mmとする。
 8. 帯鉄筋の継手は、フレアー溶接により接続し継手位置を千鳥配置とする。

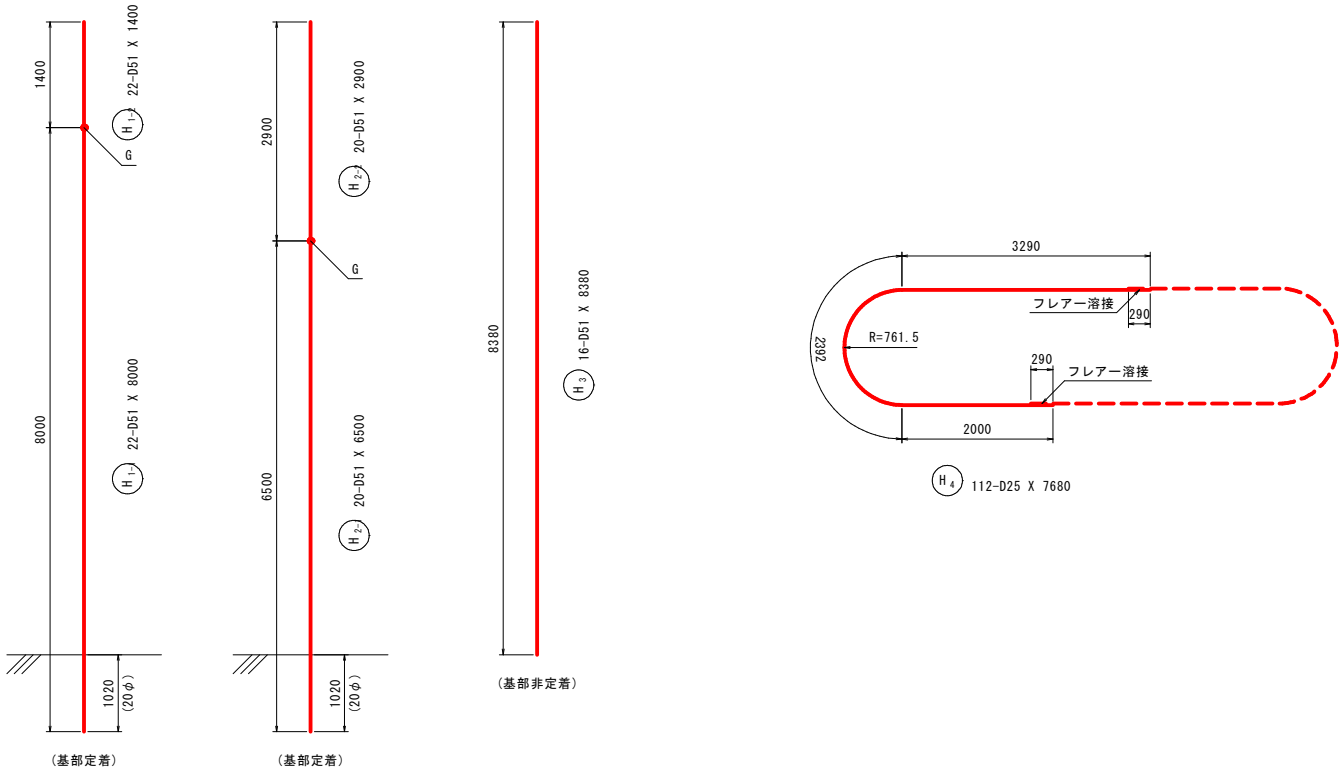
※準拠基準に関しては一般社団法人PCM工法協会
PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の
補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案)2021年8月を参照すること。

R7-8債務 起工

路線名	県道八坂鳥取停車場線
位置	県道八坂鳥取停車場線(大宮橋) 橋梁補修工事(補助橋補修)
図名	P1橋脚補強配筋図(その1)
位置	鳥取市 大覚寺 ~ 的場
縮尺	図示単位 MM
図号	全 13 葉中の内 3
令和	7 年度施行
鳥取県	鳥取県土整備事務所

大宮橋 P1橋脚補強配筋図(その2) S=1:50

(PCM巻立工法)

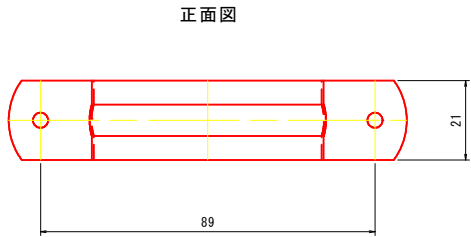


鉄筋質量表 (SD345)

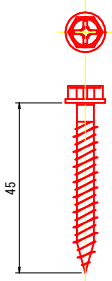
種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
H ₁₋₁	D51	8000	22	15.9	127.20	2798	(22)
H ₁₋₂	"	1400	22	"	22.26	490	
H ₂₋₁	"	6500	20	"	103.35	2067	(20)
H ₂₋₂	"	2900	20	"	46.11	922	
H ₃	"	8380	16	"	133.24	2132	
H ₄	D25	7680	112	3.98	30.57	3424	
11833							
							(圧接箇所)
合 計 D51				8409 kg	(42)	定着部削孔	42箇所
D25				3424 kg			
総質量				11833 kg	(42)		

鉄筋取付サドルバンド参考図 S=1:1

D51用

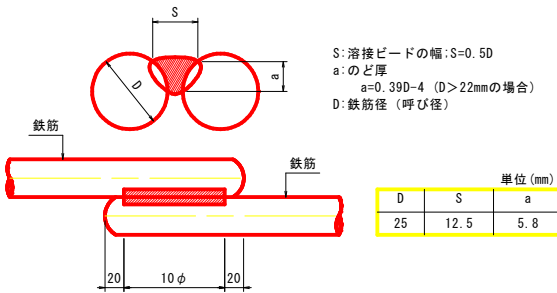


鉄筋取付アンカー参考図 S=1:1

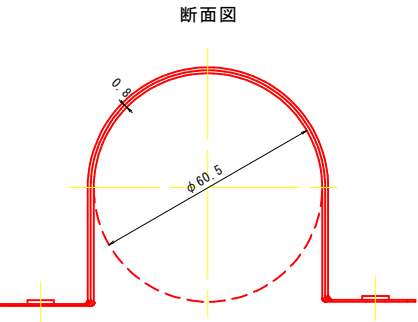


注記)
コンクリート用 鉄製φ6x45を標準とする。

フレアー溶接詳細図 S=1:4



S: 溶接ビードの幅: S=0.5D
a: のど厚
a=0.39D-4 (D>22mmの場合)
D: 鉄筋径 (呼び径)



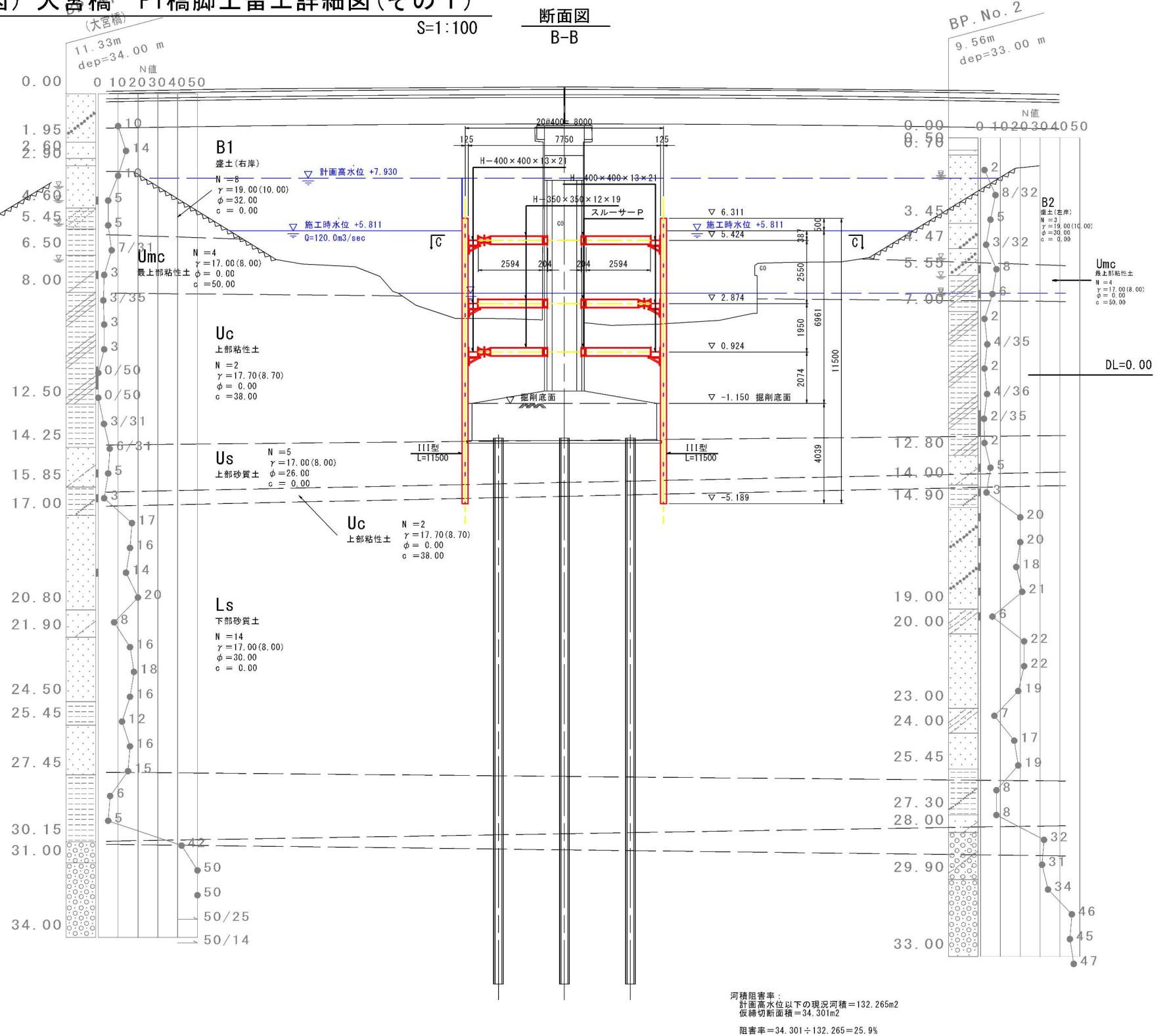
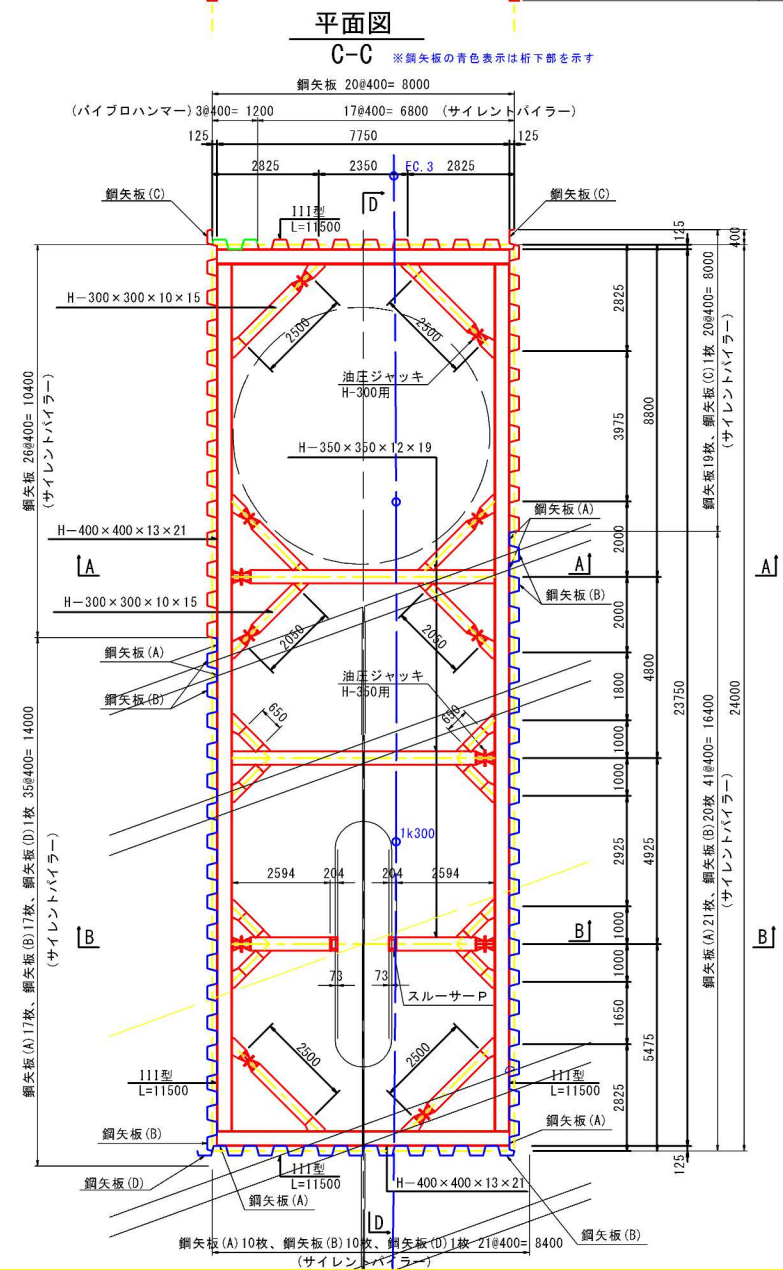
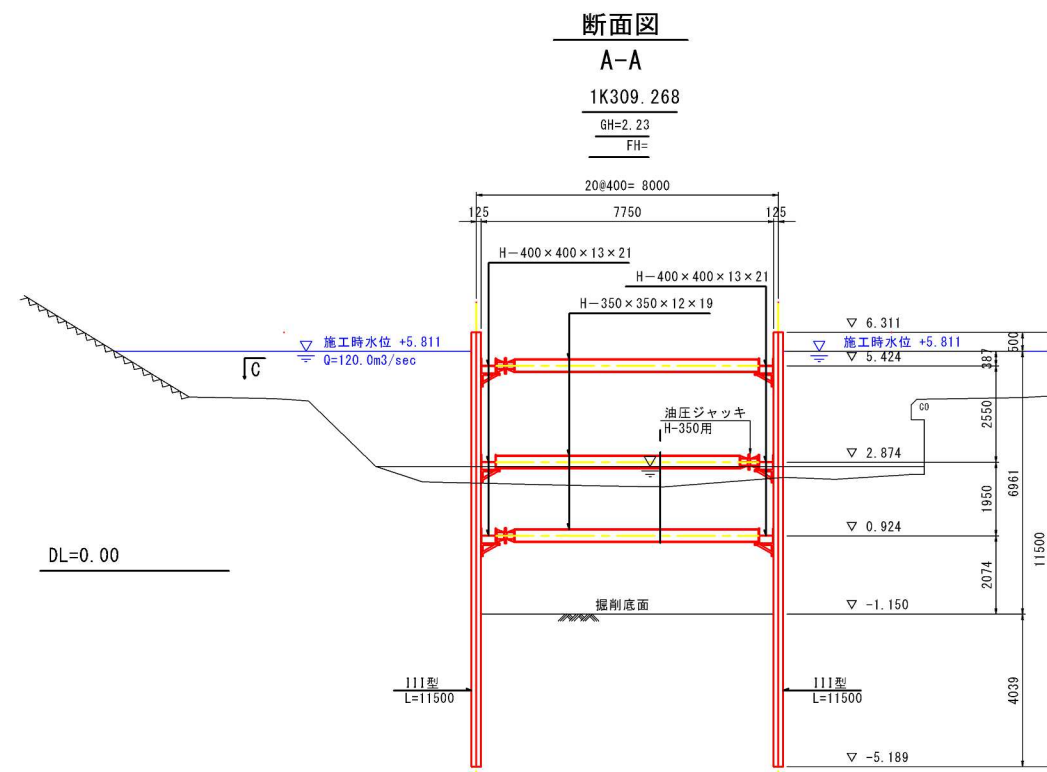
注記)
1. ガス管の留シグである。
2. 取付金具の間隔は、約2m毎に設置すること。

※準拠基準に関しては一般社団法人PCM工法協会
PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の
補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案)2021年8月を参照すること。

益 R7-8債務 起工

路線名	県道八坂鳥取停車場線		
県道八坂鳥取停車場線（大宮橋） 橋梁補修工事（補助橋補修）			
図 名	P1橋脚補強配筋図（その２）		
位 置	鳥取市 大覚寺 ～ 的場		
縮 尺	図 示	単 位	MM
図 号	全 13 葉中の内 4		
令和 7 年度施行			
鳥取県 鳥取県土整備事務所			

(参考図) 大宮橋 P1橋脚土留工詳細図(その1)



設計条件

対象構造物		橋脚
掘削面積		7.750m × 23.750m
掘削深さ		H= 6.961 m
水位		WL 5.811
土圧	安定計算	ランキン
	断面計算	断面計算用土圧
水圧		三角形
地表面土載荷重		25.00kN/m ²
切ばりの温度軸力		150.0kN

注) 火打ち(大)へ油圧ジャッキを設置する

注記)

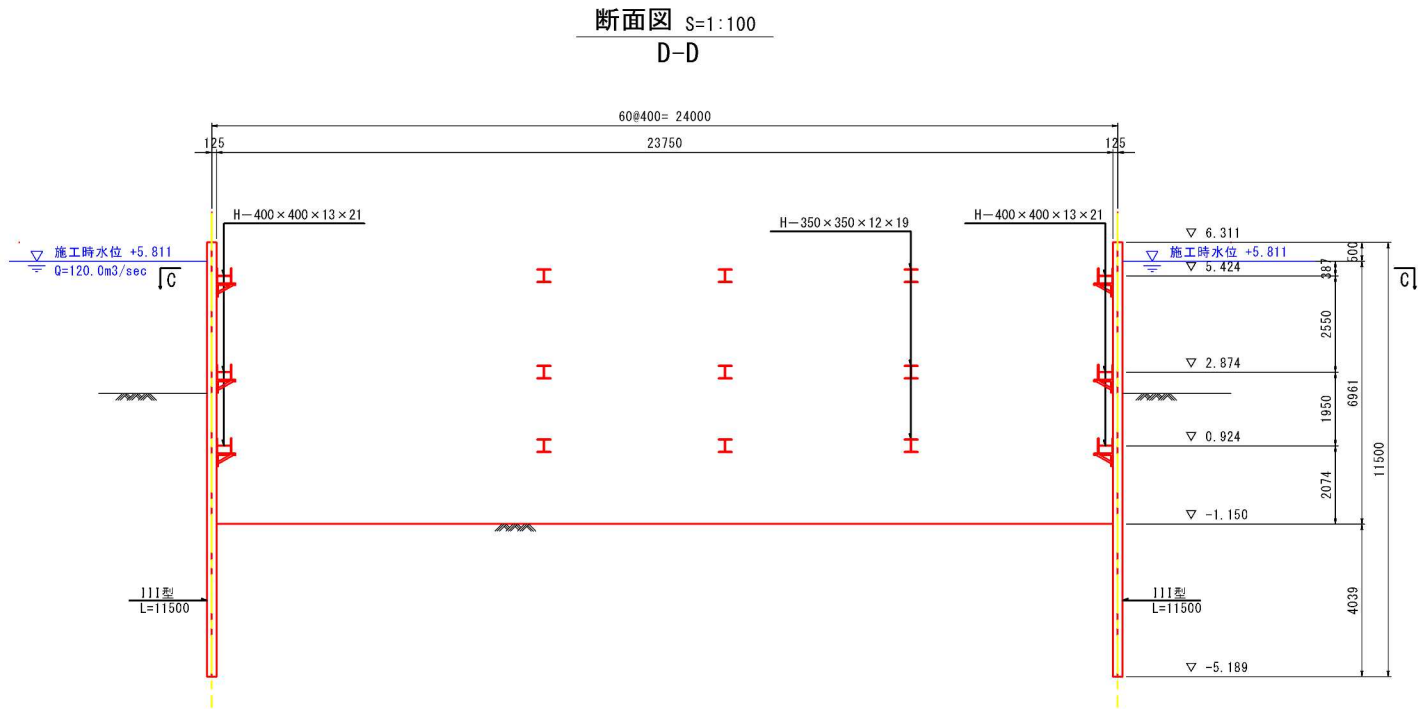
1. 施工時期は、非出水期施工(10/21~6/9)を基本とすること。
2. 施工実施前に既設形状を再計測すること。
3. 河川区域内工事のため、河川協議の届けを行うこと。
4. 鋼矢張り施設はN値以下であるため、ウオータージョイントは考慮していない。
5. 既設底面の下はウオータージョイントが必要となる場合があるため、状況に応じて発注者と協議すること。
6. コーナー施工時はコーナー用反力矢板を1箇所につき1枚設置すること。
7. 掘削底面はフレンジアップ面までとし、E=1.150以上は掘削しないこと。

(参考図)

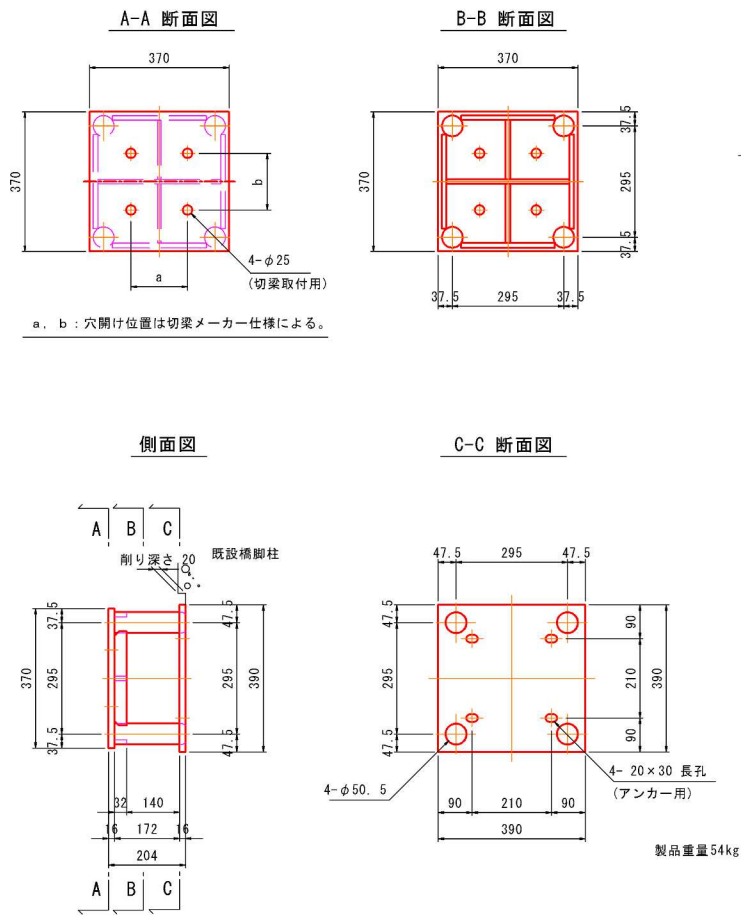
⊙ R7-8債務 起工

路線名	県道八坂鳥取停車場線		
県道八坂鳥取停車場線（大宮橋） 橋梁補修工事（補助橋補修）			
図 名	P1橋脚土留工詳細図（その１）		
位 置	鳥取市 大覚寺 ～ の場		
縮 尺	図 示	単 位	MM
図 号	全 13 葉中の内 5		
令和 7 年度施行			
鳥取県 鳥取県土整備事務所			

(参考図) 大宮橋 P1橋脚土留工詳細図(その2)



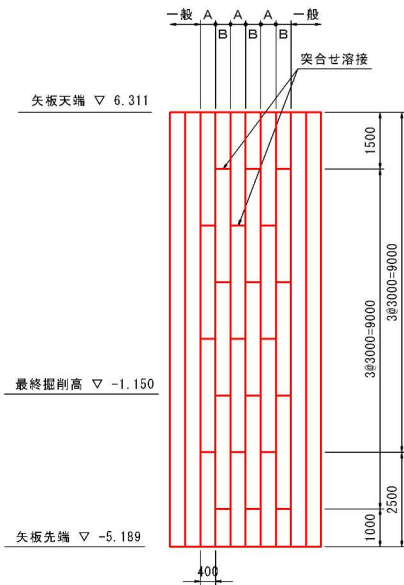
スルーサーP詳細図 S=1:10
H-350用(同等品)



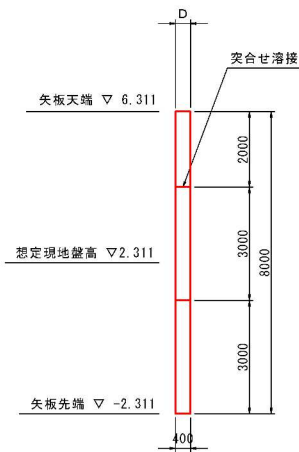
スルーサーPの施工要領

1. 既設コンクリートの削り、下地処理
2. アンカーの埋め込み
3. スルーサー P の設置
4. 山留め材の設置
5. コンクリートの下地処理
6. 鉄筋の組立
7. 箱抜き用型枠の設置
8. PCM 巻立て
9. 仕上げ養生
10. 山留め材の撤去
11. スルーサー P の切断
12. 表面仕上げ

矢板配置イメージ



コーナー矢板(D)継手イメージ



鋼材質量表

名称	寸法	長さ (mm)	単位質量 (kg/m)	数量 (枚、本)	全体質量 (kg)	摘要
鋼矢板	Ⅲ型 400x125x13.0	11500	60	65	44850	リース材
鋼矢板(A)	Ⅲ型 400x125x13.0	11500	60	48	33120	買取
鋼矢板(B)	Ⅲ型 400x125x13.0	11500	60	47	32430	"
鋼矢板(C)	Ⅲ型 400x125x13.0	8000	60	2	960	リース材
鋼矢板(D)	Ⅲ型 400x125x13.0	8000	60	1	480	買取
小計					111840	kg
腹起しA	400x400x13x21	7750	200	6	9300	リース材
腹起しB	400x400x13x21	23750	200	6	28500	"
切梁A	350x350x12x19	6450	150	6	5805	"
切梁B	350x350x12x19	2094	150	6	1885	"
スルーサーP(同等品)	H-350用		54	6	324	買取
油圧ジャッキA	H-300用		125	24	3000	リース材
油圧ジャッキB	H-350用		200	12	2400	"
隅火打ち	300x300x10x15	2000	100	12	2400	"
切梁火打ちA	300x300x10x15	1550	100	12	1860	"
切梁火打ちB	300x300x10x15	650	100	24	1560	"
小計					57034	kg
種別集計						
鋼矢板	Ⅲ型 400x125x13.0				111840	kg
腹起し	400x400x13x21				37800	kg
切梁	350x350x12x19				7690	kg
スルーサーP(同等品)	H-350用				324	kg
油圧ジャッキ	H-300用				3000	kg
	H-350用				2400	kg
火打ち	300x300x10x15				5820	kg
副部材(A)	57034 x0.22				12547	kg
副部材(B)	57034 x0.04				2281	kg

注記)
1. スルーサー設置時は、事前に鉄筋調査を実施すること。
2. スルーサー設置前にバテ用エポキシ系接着剤を塗布すること。

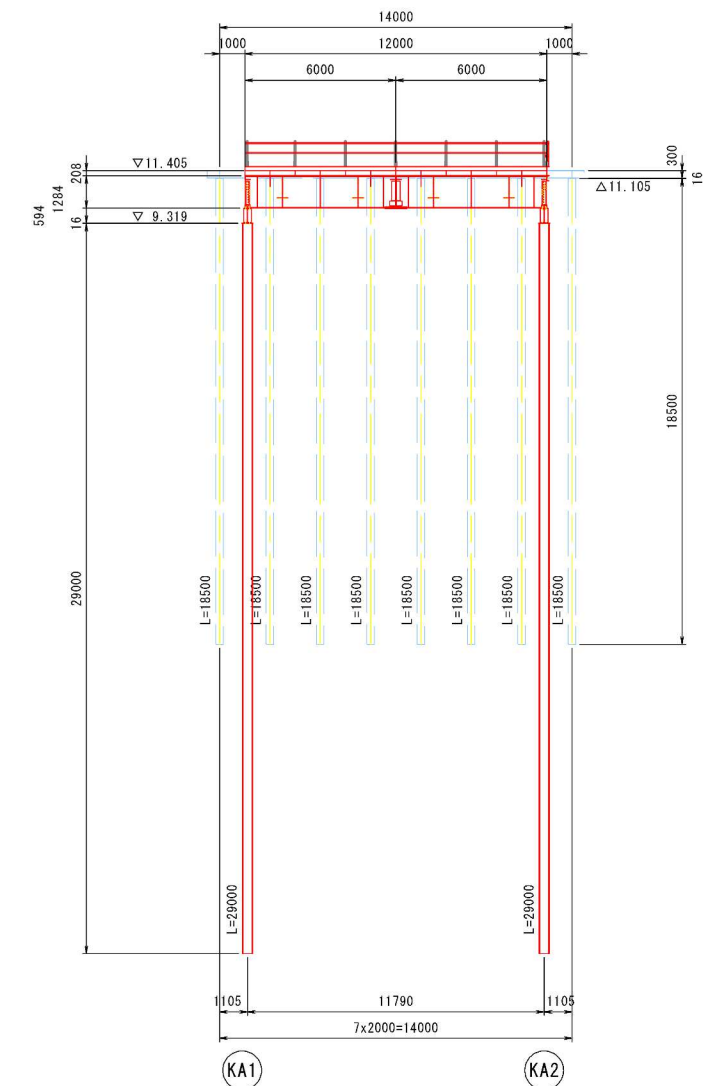
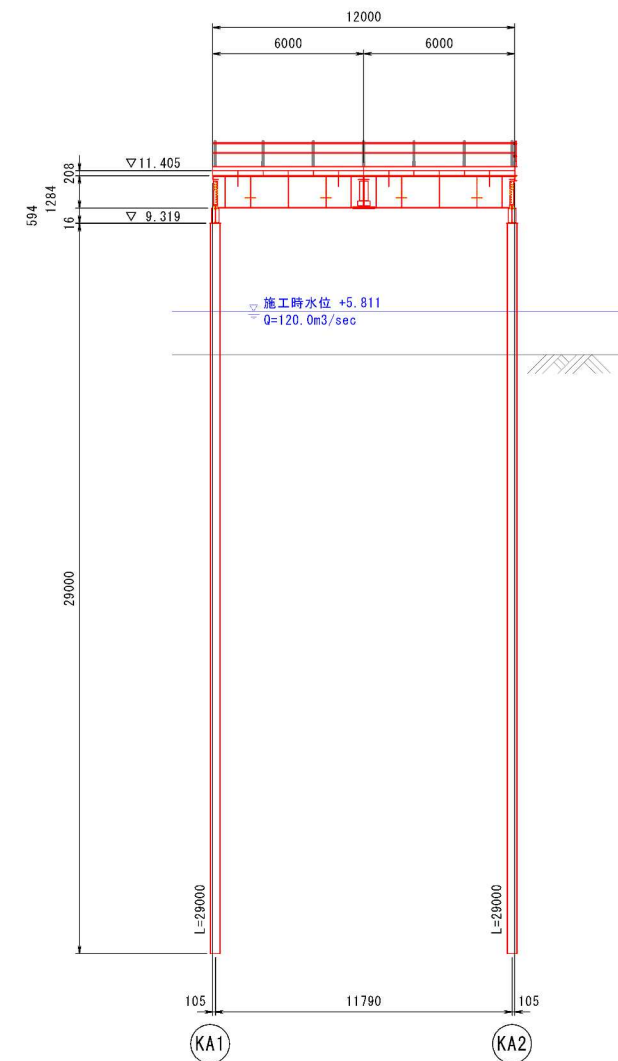
(参考図)

⑧ R7-8債務 起工

路線名	県道八坂鳥取停車場線
県道八坂鳥取停車場線(大宮橋) 橋梁補修工事(補助橋補修)	
図名	P1橋脚土留工詳細図(その2)
位置	鳥取市 大覚寺 ~ 的場
縮尺	図示単位 MM
図号	全 13 葉中の内 6
令和 7 年度施行	
鳥取県 鳥取県土整備事務所	

S=1 : 150

B-B 側面図



棧橋材料表

覆工板	MD(M)-1.0x2.0
主桁	飯桁
受桁	H594x302x14x23
支持杭	H400x400x13x21
踏掛桁	H300x300x10x15
土留杭	H300x300x10x15

注記)
1. 施工時期は、非出水期施工(10/21～6/9)を基本とすること。

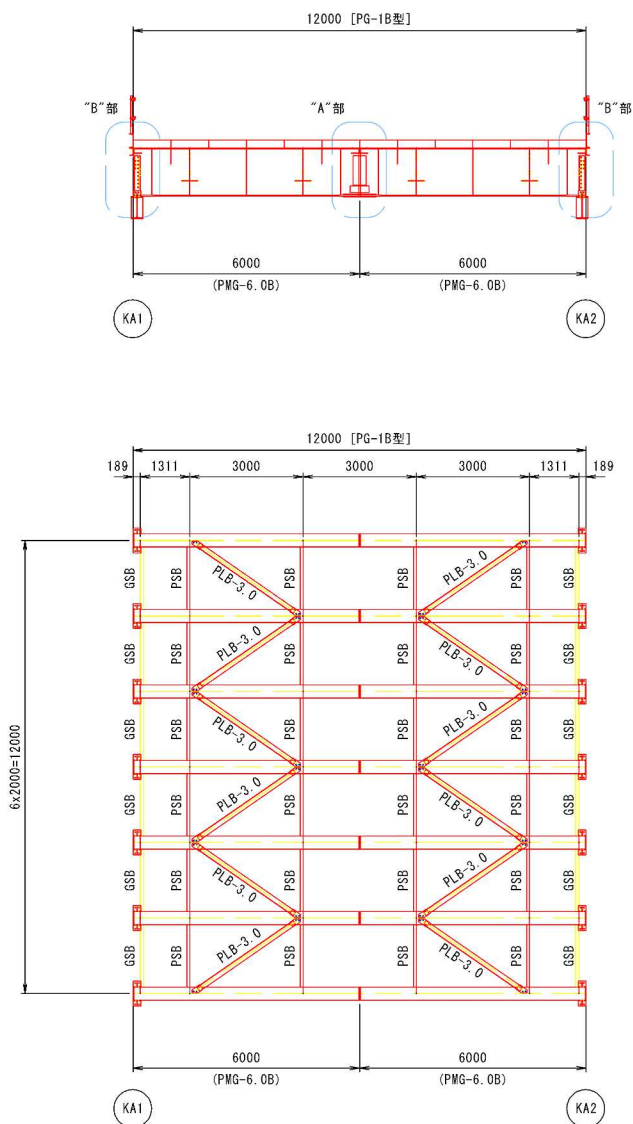
(参考図)

共
R7-8債務
起工

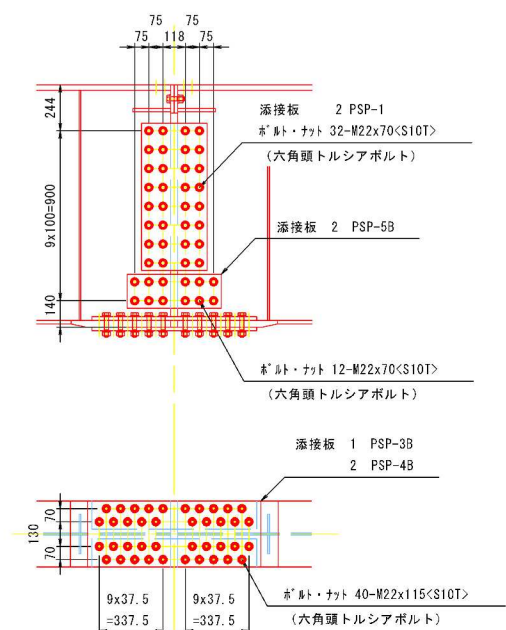
路線名	県道八坂鳥取停車場線		
県道八坂鳥取停車場線（大宮橋） 橋梁補修工事（補助橋補修）			
図名	仮設構台全体一般図		
位置	鳥取市 大覚寺 ～ 的場		
縮尺	図示	単位	MM
図号	全 13 葉中の内 7		
令和 7 年度施行			
鳥取県 鳥取県土整備事務所			

(参考図) 大宮橋 仮設構台上部工詳細図(その1)

主桁・対傾構・横構 配置図 S=1:100



主桁の添接("A"部) S=1:20



※ <S10T>は、六角頭トルシアボルトを示す。

- 添接板 2 PSP-1
2 PSP-5B
1 PSP-3B
2 PSP-4B
ボルトナット 40 M22x115<S10T> (六角頭トルシアボルト)
2 M22x 80 (F10T)
44 M22x 70<S10T> (六角頭トルシアボルト)

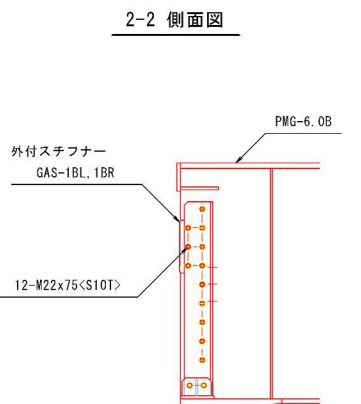
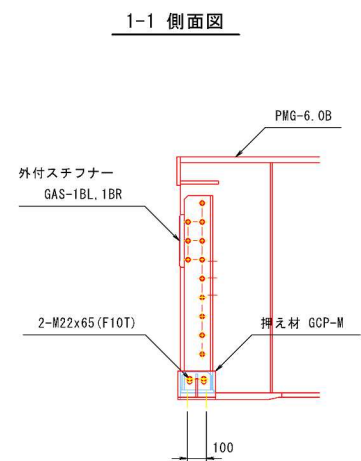
注1) ウェブ及び下フランジの添接には 六角頭トルシアボルトを使用し
他は六角高力ボルトを使用する。

注2) 下フランジでは ボルトをすべて外向きに挿入する。

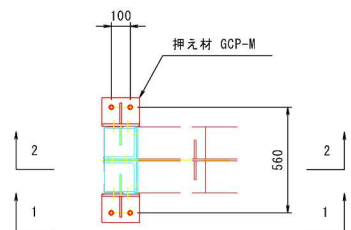
注3) ドリフトピンを 下フランジボルト穴に打ち込み 位置決めを行う。

注4) 上フランジのエンドプレートに密着させるため ボルト締めは上フランジから行う。

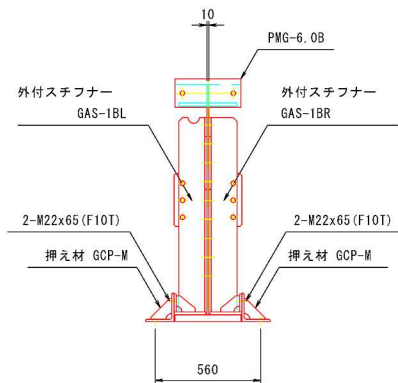
"B"部 添接部 S=1:20



平面図



断面図



※ <S10T>は、六角頭トルシアボルトを示す。

- 外付けスチフナー 1 GAS-1BL
1 GAS-1BR
押え材 2 GCP-M
取付ボルト 12 M22x75<S10T> (六角頭トルシアボルト)
4 M22x65 (F10T)

※押え材は長孔を外付スチフナー側へ向け取り付ける。

(参考図)

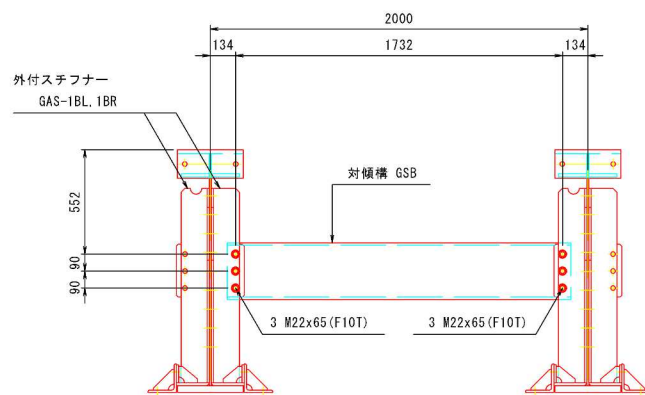
益 R7-8債務 起工

路線名	県道八坂鳥取停車場線
	県道八坂鳥取停車場線 (大宮橋) 橋梁補修工事 (補助橋補修)
図名	仮設構台上部工詳細図 (その1)
位置	鳥取市 大覚寺 ~ 的場
縮尺	図示単位 MM
図号	全 13 葉中の内 8
令和	7 年度施行
	鳥取県 鳥取県土整備事務所

(参考図) 大宮橋 仮設構台上部工詳細図(その2)

対傾構 S=1:20

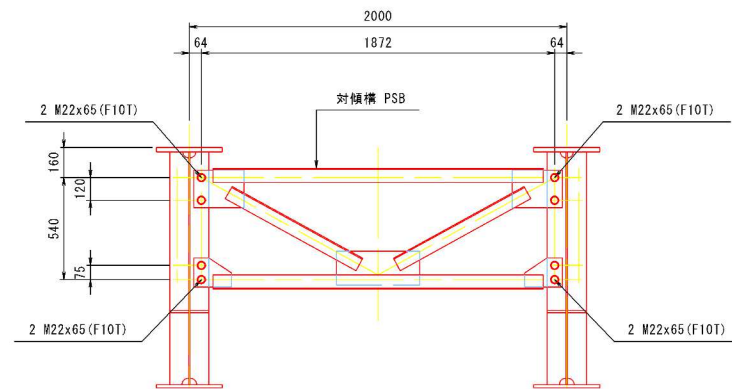
端部対傾構



対傾構 1 GSB
取付ボルト 6 M22x65 (F10T)

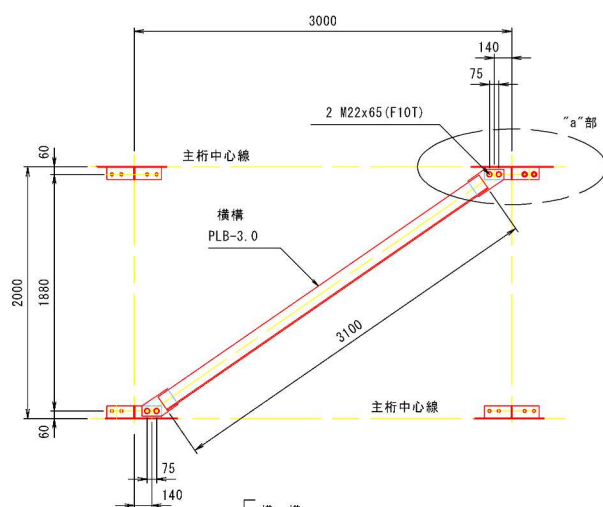
対傾構 S=1:20

中間部対傾構



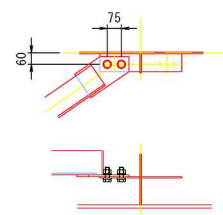
対傾構 1 PSB
取付ボルト 8 M22x65 (F10T)

横構 S=1:30



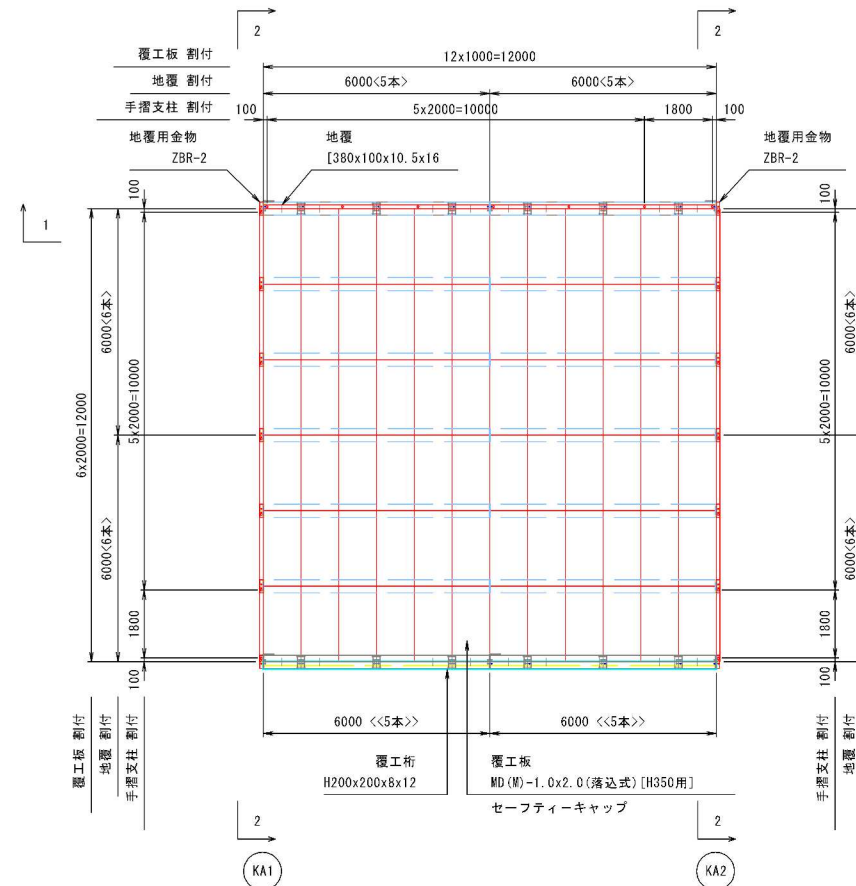
横構 1 PLB-3.0
取付ボルト 4 M22x65 (F10T)

“a”部 拡大図 S=1:20

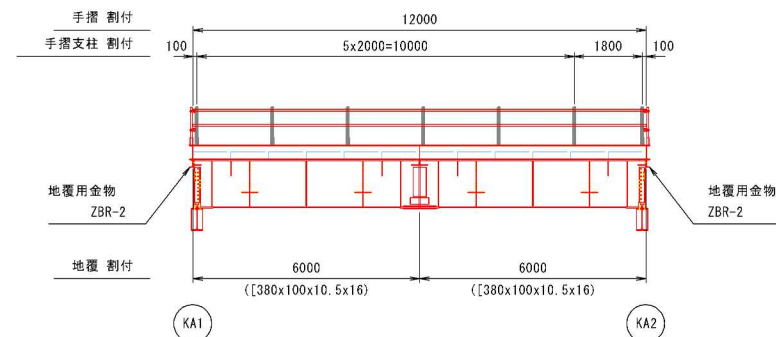


覆工板・地覆・覆工桁・手摺支柱 配置図 S=1:100

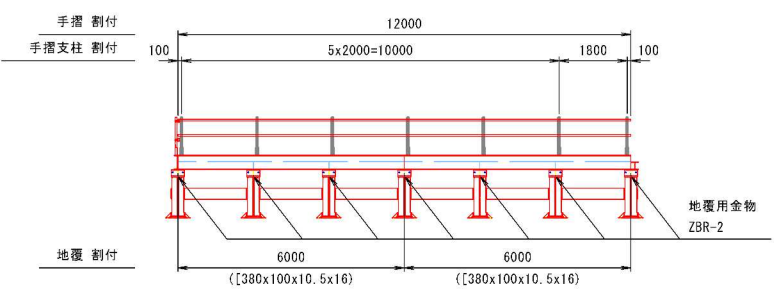
※ < > 内の本数は、地覆取付ボルト本数とする。
※ < < > 内の本数は、覆工桁取付ボルト本数とする。



1-1 手摺割付図 S=1:100

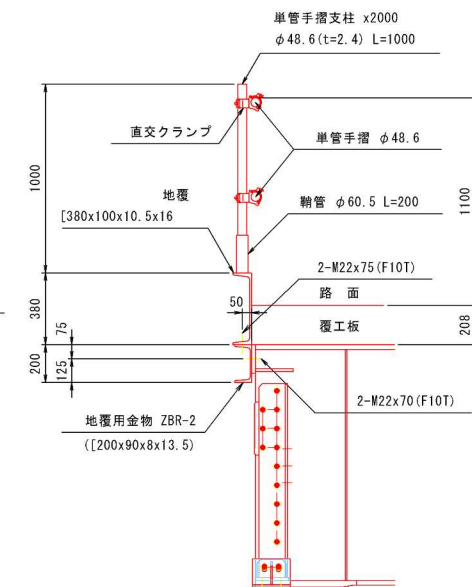


2-2 手摺割付図 S=1:100

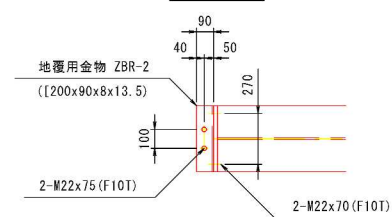


手摺取付詳細図 S=1:20

橋軸直角方向

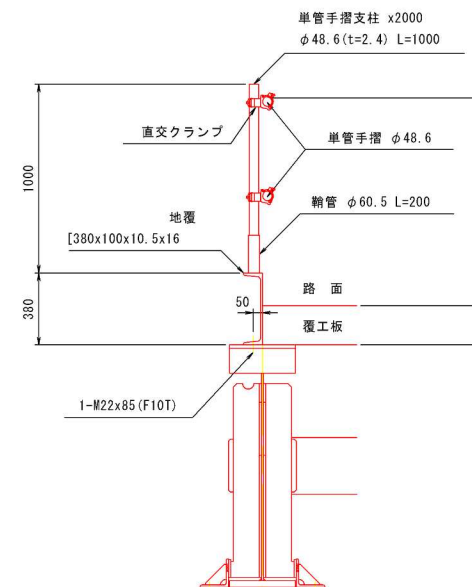


平面図



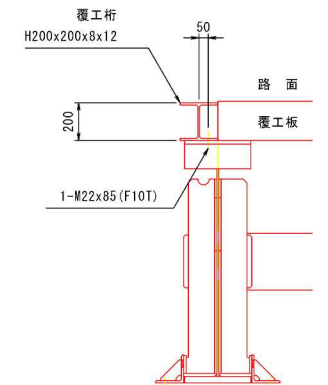
手摺取付詳細図 S=1:20

橋軸方向



覆工桁取付詳細図 S=1:20

橋軸方向

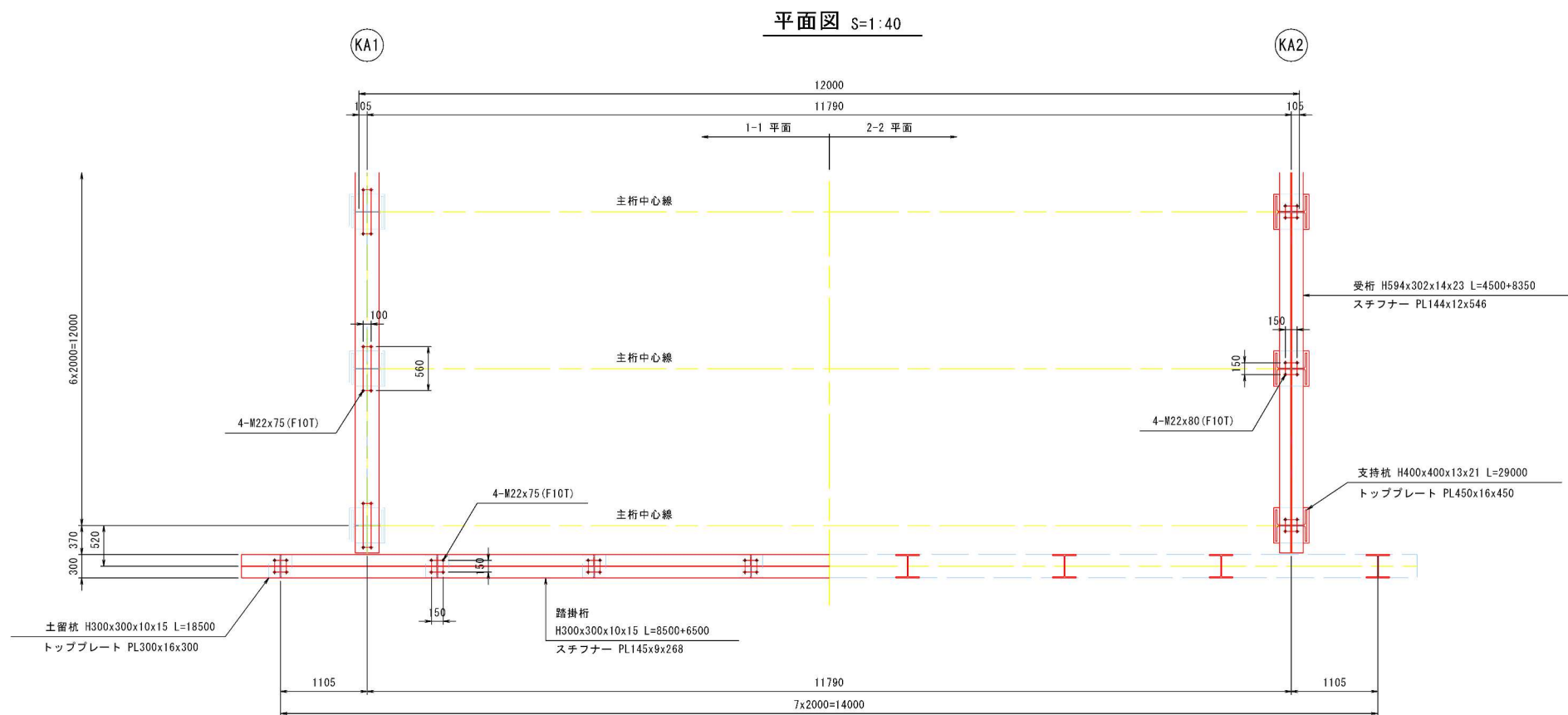
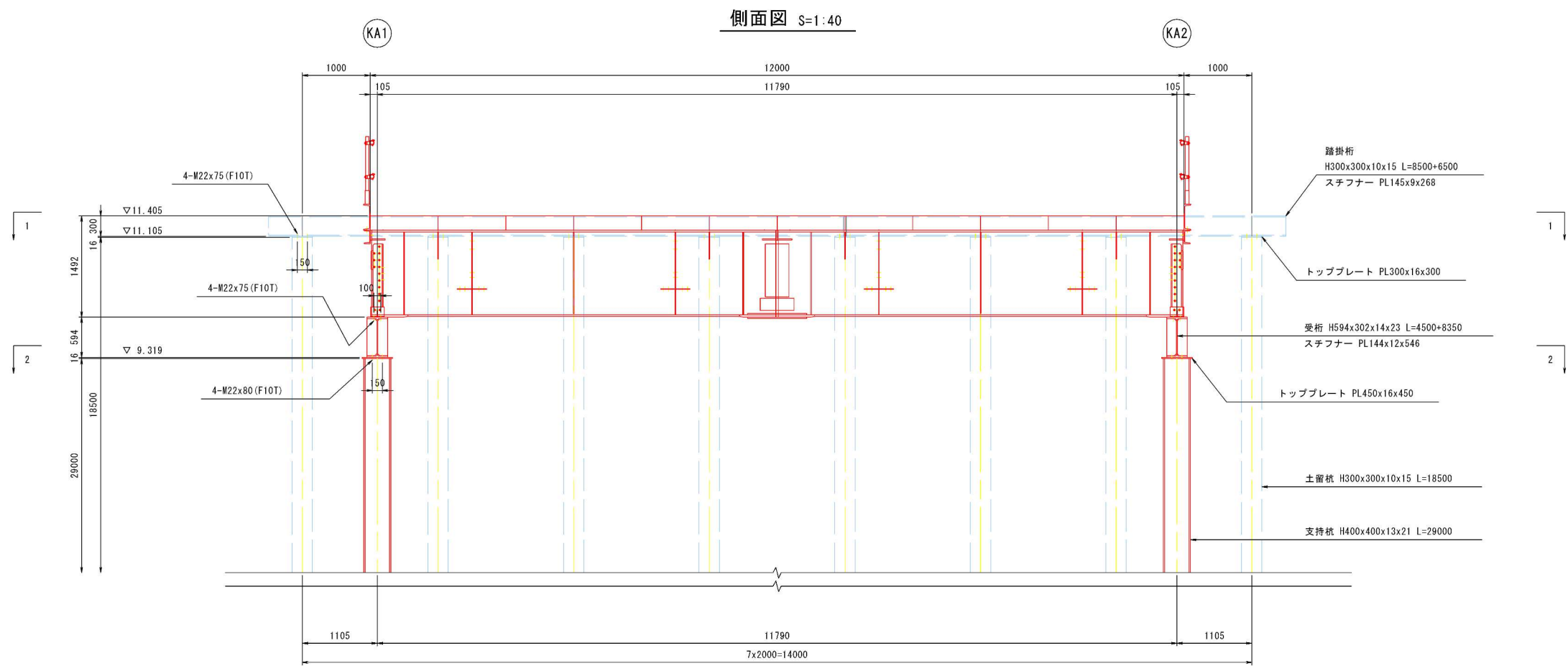


(参考図)

益 R7-8債務 起工

路線名	県道八坂鳥取停車場線
位置	県道八坂鳥取停車場線 (大宮橋) 橋梁補修工事 (補助橋補修)
図名	仮設構台上部工詳細図 (その2)
位置	鳥取市 大覚寺 ~ 的場
縮尺	図示単位 MM
図号	全 13 葉中の内 9
令和 7 年度施行	
鳥取県 鳥取県土整備事務所	

(参考図) 大宮橋 仮設構台下部工詳細図(その1)



(参考図)



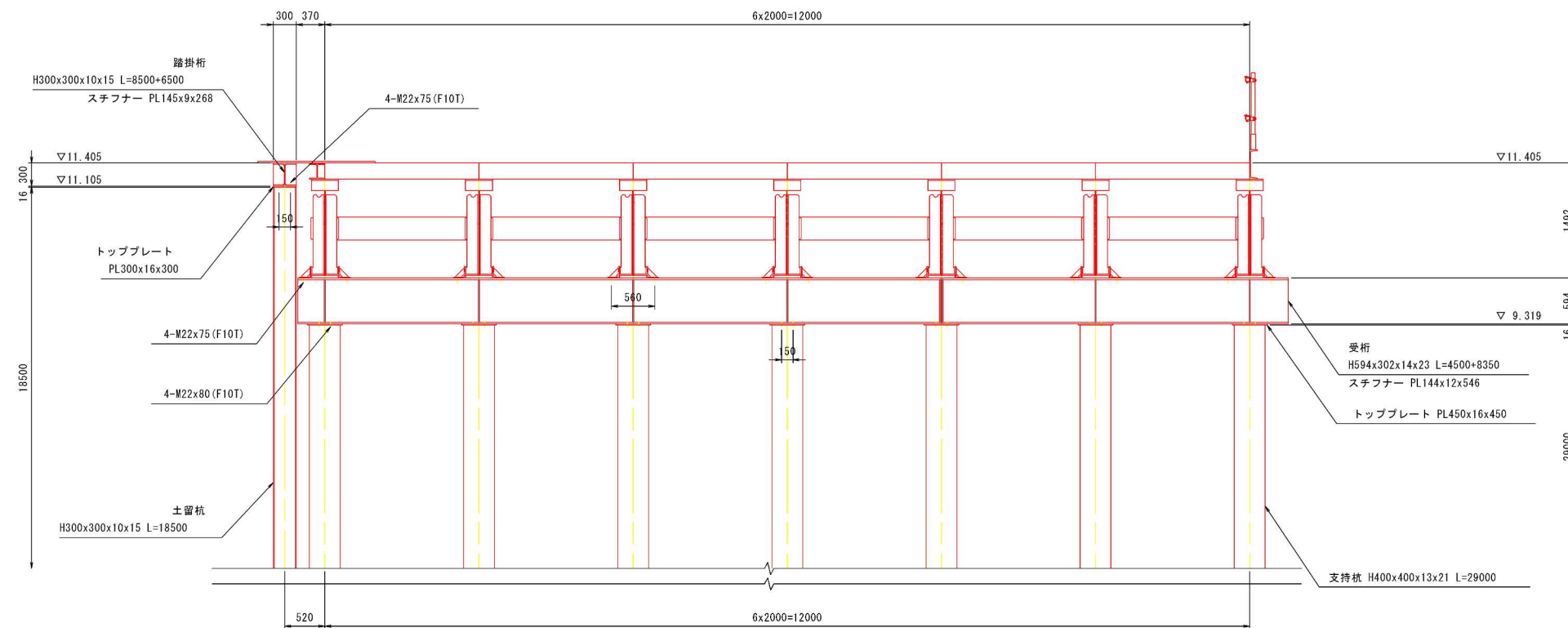
R7-8債務

起工

路線名		県道八坂鳥取停車場線		
県道八坂鳥取停車場線（大宮橋） 橋梁補修工事（補助橋補修）				
図 名	仮設構台下部工詳細図（その１）			
位 置	鳥取市 大覚寺 ～ 的場			
縮 尺	図 示	単 位	MM	
図 号	全 13 葉中の内 10			
令和	7 年度施行			
鳥取県 鳥取県土整備事務所				

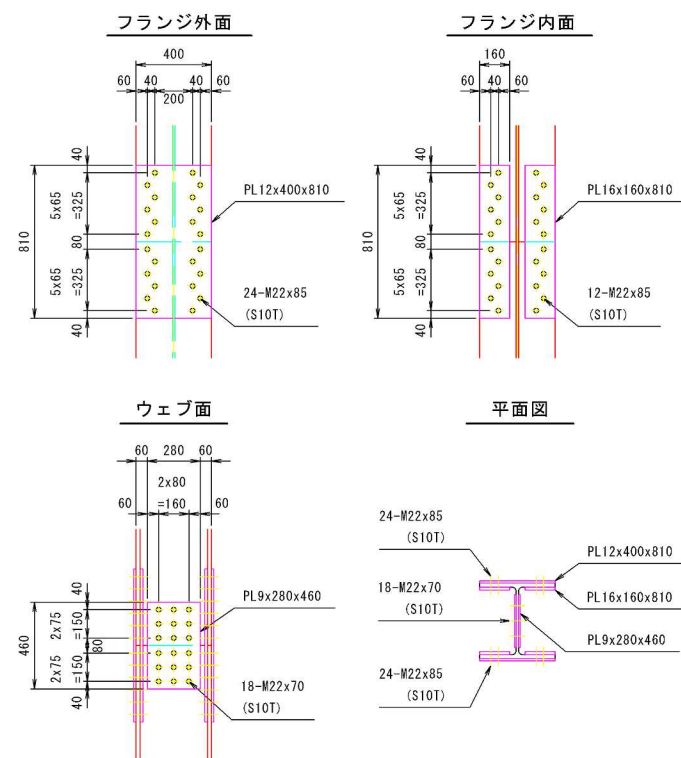
(参考図) 大宮橋 仮設構台下部工詳細図(その2)

KA1 断面图 S=1:40



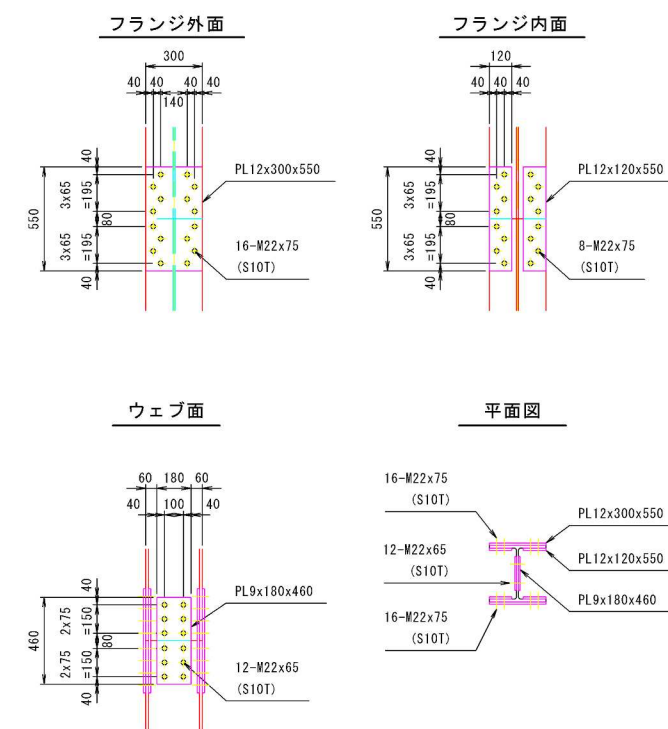
支持杭接合部詳細図 S=1:20

H400x400x13x21



土留杭接合部詳細図 S=1:20

H300x300x10x15



(参考図)

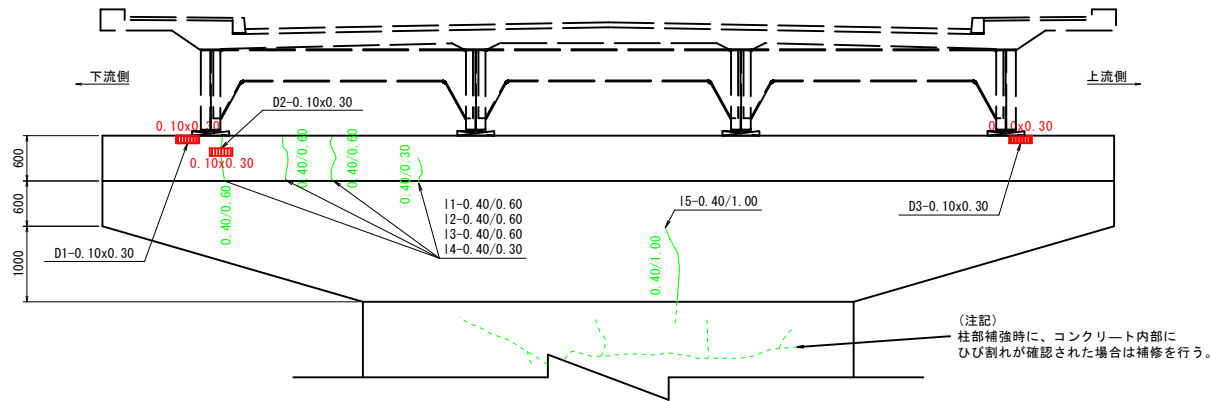
公共
R7-8債務
起工

路線名	県道八坂鳥取停車場線
県道八坂鳥取停車場線（大宮橋） 橋梁補修工事（補助橋補修）	
図 名	仮設構台下部工詳細図（その2）
位 置	鳥取市 大覚寺 ～ 的場
縮 尺	図 示 単 位 MM
図 号	全 13 葉 中 の 内 11
令和 7 年度施行	
鳥取県 鳥取県土整備事務所	

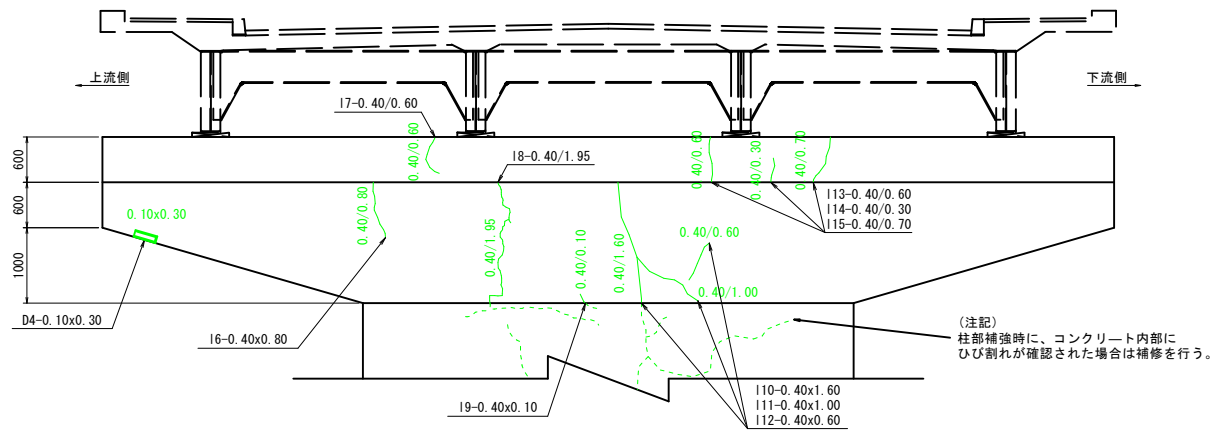
大宮橋 補修図（その１）
（ひび割れ注入工・断面修復工・沓座モルタル補修工）

P 1 橋脚

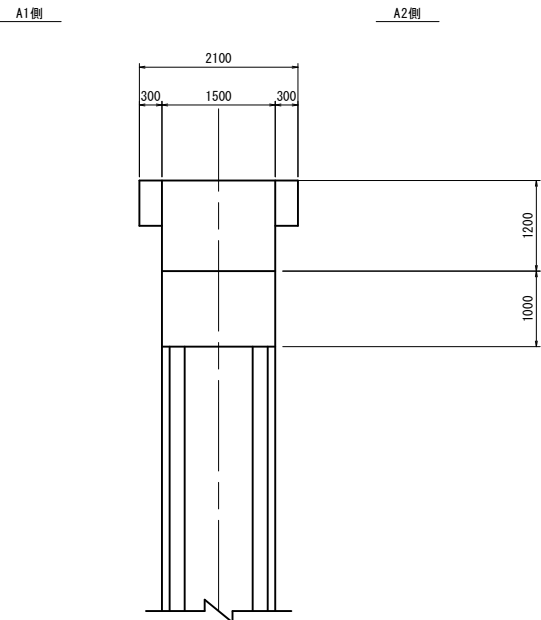
正面図
(A1橋台側)



正面図
(A2橋台側)

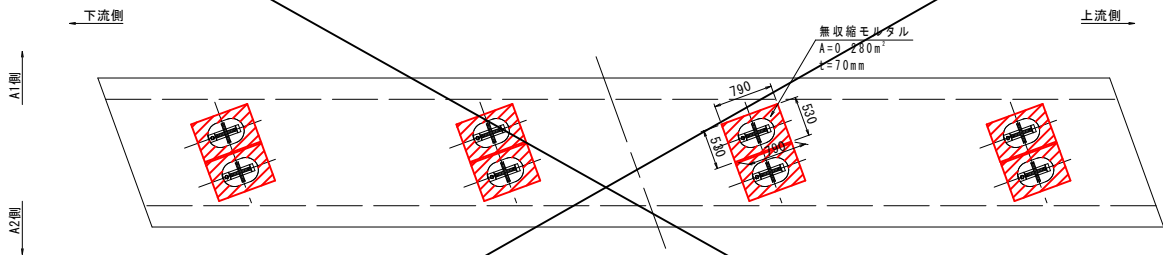


側面図

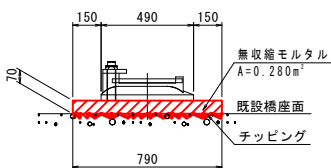


沓座モルタル補修工（過年度施工済み）

平面図
(P1橋脚)



側面図



凡 例

補修工法	
I	ひびわれ注入工 (0.2mm ≦ W < 0.5mm)
I	ひびわれ注入工 (0.5mm ≦ W < 1.0mm)
I	ひびわれ注入工 (1.0mm ≦ W ≦ 5.0mm)
D	剥離
D	鉄筋露出
D	うき
D	豆板
D	その他
10-0.00/0.00	補修工法 補修番号-幅/補修延長
D0-0.00x0.00	補修工法 補修番号-補修幅x補修幅

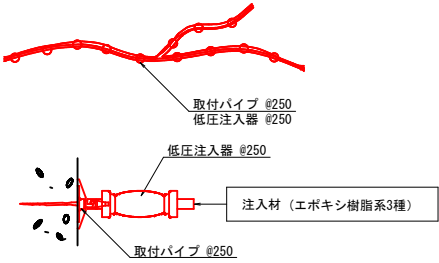
- 注記
- 本図面は、竣工図に基づき作成したものであるため、施工時は、事前に形状寸法並びに現地状況を確認し、適宜修正すること。
 - 損傷は、H30年度橋梁定期点検結果を基に作成しているため、事前に損傷を確認し数量等を確定すること。
 - 事前調査により数量に変更が生じる場合は、調査職員と協議を行い適宜変更を行うこと。

② R7-8債務 起工

路線名	県道八坂鳥取停車場線
位置	鳥取市 大覚寺 ～ 的場
図 名	大宮橋 補修図(その1)
縮 尺	図 示 単 位 MM
図 号	全 13 葉 中 の 内 12
令和 7 年度施行	
鳥取県 鳥取県土整備事務所	

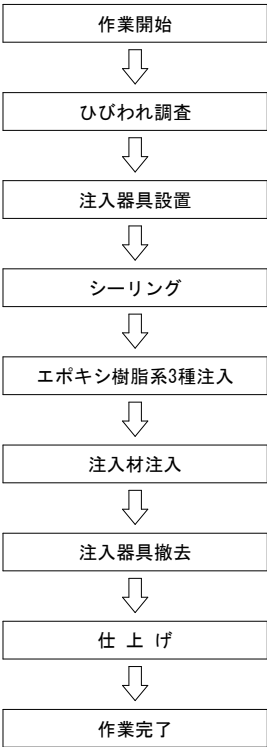
大宮橋 補修図（その2）

ひびわれ注入工
（参考図）

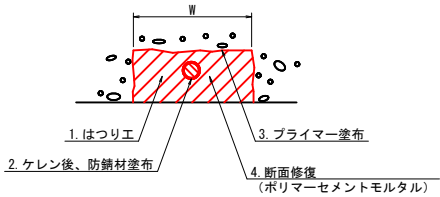


- ※ 気温5℃以下では施工しないこと。
- ※ 鉛直方向のひびわれについては、特に注入材の逸脱に注意すること。
- ※ 注入材は可使時間内に注入を行い、可使時間を過ぎた材料については使用しないこと。
- ※ 注入はひびわれの下方から上方向に向かって、順次注入を行う。
- ※ 注入パイプ取付は25cm間隔を基本とする。

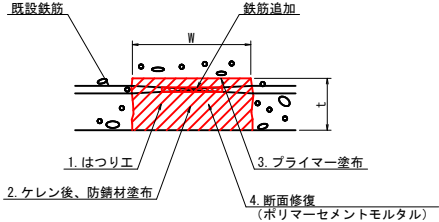
施工手順



断面修復工（左官工法）
（参考図）

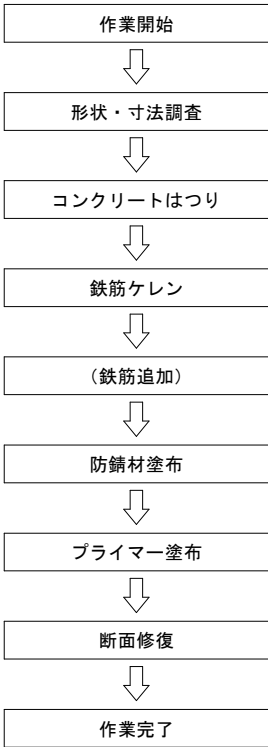


断面修復工（鉄筋追加）（左官工法）
（参考図）

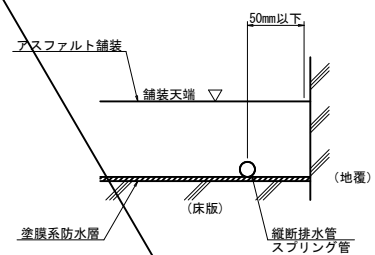


- ※ 鉄筋周辺のうきおよび劣化したコンクリートは除去すること。
- ※ 端部は、L字カットを行い、フェザーエッジとならない処理を行うこと。
- ※ 腐食鉄筋のケレンに伴い鉄筋断面が著しく減少した箇所（25%以下）は、新たに同径の鉄筋を追加設置すること。
- ※ 鉄筋を追加する場合は、必要な鉄筋継ぎ手長を確保すること。
- ※ 断面修復工は、原形復旧を基本とするが、純かぶり10mm未満の箇所に ついては、10mm以上のかぶり厚を確保させること。
- ※ 材料は可使時間内に使用し、可使時間を過ぎたものについては使用しないこと。

施工手順

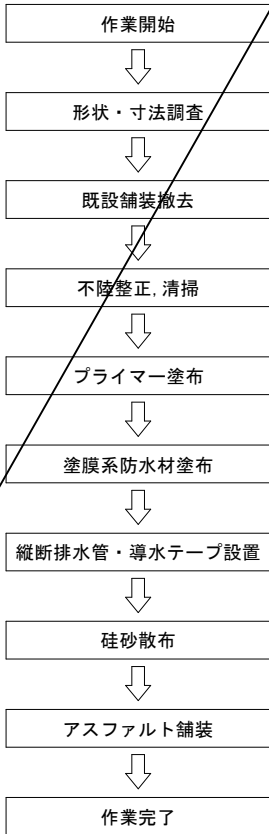


橋面防水工
（参考図）

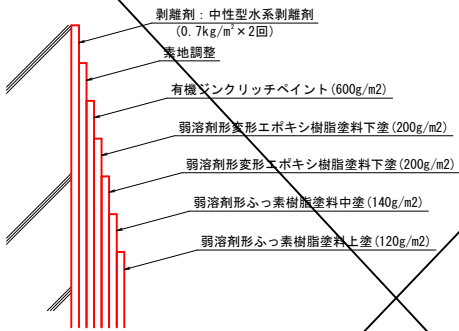


- ※ 舗装版取壊しを行う際は、床版等を破壊しないよう注意すること。
- ※ コンクリートを削孔する際は、既設鉄筋に損傷を与えないように、事前に鉄筋探査を実施し削孔位置を決定すること。
- ※ 排水装置設置の際に主構造と干渉する場合は、排水装置位置を調整すること。
- ※ 既設舗装撤去後に床版上面に不陸が見られる場合は、モルタル等で不陸修正を行うこと。
- ※ 排水勾配が逆勾配となる箇所については、施工時に排水勾配を設けること。
- ※ 防水材塗布時は表面水分量10%以下とすること。
- ※ 防水材塗布は、気温5℃未満では施工しないこと。
- ※ 縦断排水管および導水テープの流末処理については、既設排水斜を穿孔し、排水斜内に差し込むこと。

施工手順

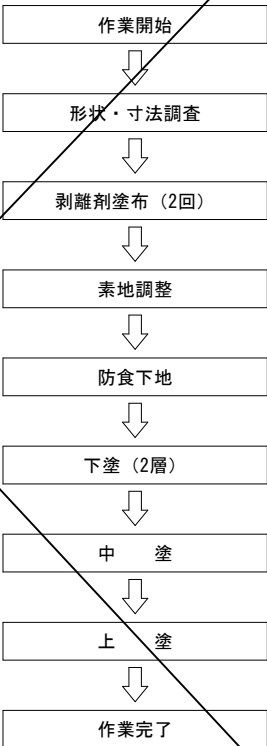


塗装塗替え工
（参考図）

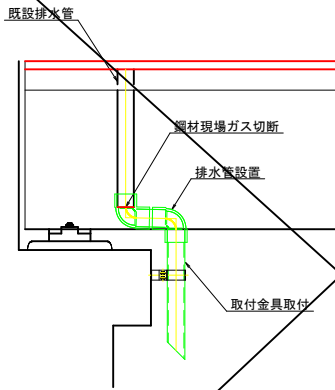


Rc-Ⅱ塗装系		
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m²)
清掃・水洗い		
剥離剤	中性型水系剥離剤（2回）	700
素地調整工	2種ケレン	
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600
下塗工	弱溶剤形変性エポキシ樹脂下塗	200
中塗工	弱溶剤形変性エポキシ樹脂中塗	200
上塗工	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料中塗	140
	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120

施工手順

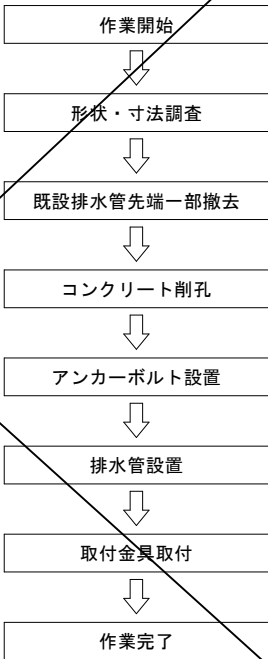


排水管取替工
（参考図）

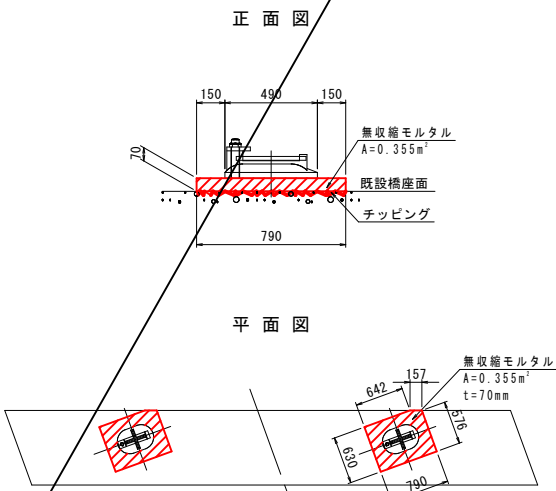


- ※ コンクリートを削孔する際は、既設鉄筋に損傷を与えないように、事前に鉄筋探査を実施し削孔位置を決定すること。

施工手順

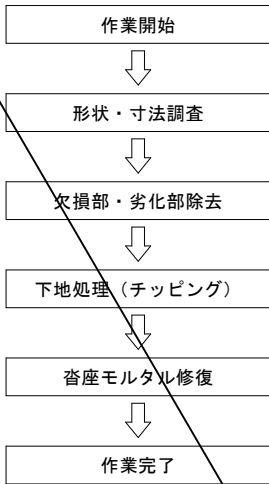


沓座モルタル補修工
（参考図）



- ※ 沓座モルタル補修工は、原形復旧を基本とする。

施工手順



注記）

- 本図面は、竣工図に基づき作成したものであるため、施工時は、事前に形状寸法並びに現地状況を確認し、適宜修正すること。
- 損傷は、H30年度橋梁定期点検結果を基に作成しているため、事前に損傷を確認し数量等を確定すること。
- 事前調査により数量に変更が生じる場合は、調査職員と協議を行い適宜変更を行うこと。
- 主桁・横桁の塗装面積は、塗歴板の値を参照しているため、事前に調査を行い、適宜変更を行うこと。
- 支承の塗装面積は、デザインデータブックの値を参考としているため、事前に調査を行い、適宜変更を行うこと。
- 事前に既設ドレーン管位置を確認し、スプリング管を接続させること。
- 路面標示（区画線等）は、R01年度業務で実施された道路設計を確認し、施工を行うこと。

（注） R7-8債務 起工

路線名		県道八坂鳥取停車場線		
県道八坂鳥取停車場線（大宮橋） 橋梁補修工事（補助橋補修）				
図 名		大宮橋 補修図（その２）		
位 置		鳥取市 大覚寺 ～ 的場		
縮 尺		図 示	単 位	MM
図 号		全 13 葉中の内 13		
令和 7 年度施行				
鳥取県 鳥取県土整備事務所				